

愛媛大学教育学部

第113号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

賀 春 元 旦



愛媛大学教育学部同窓会役員一同

〈共〉の創成としての〈学び〉の創造に向けて

愛媛大学
教育学部長
壽 卓二

こんにちは。卒業生の皆様、お元氣でお過ごしでしょうか。今回は教育学部の大変喜ばしいニュースをまよお伝えします。教育学部の教員就職率は、数年来四〇%台を低迷し、全国的にもかなり低い水準にありました。ところが、平成二十三年三月卒業生の教員就職率は、六〇%を超えることが判明しました。この飛躍的増加の原因としては、愛媛県の教員採用数が増加しつつあること、これに反して経済不況で一般の就職先が縮小されたことなどが挙げられるでしょう。しかし、決定的な要因としては、愛媛県教育委員会や松山市教育委員会を始めとして多くの教育関係者のご理解によって、大学での学びを多様な形で教育現場での実践と結びつける機会が持てるようになったことだと考えています。本当

に多くの教育現場で、多様な形で子どもたちと触れあうことによって大学での学びを具体化し、更にそれを大学に持ち帰って意味づけしていくという理論と実践の往還を通して学生の教育実践力を育成することが可能となりました。その過程で、学生たちは教育学部の多くの諸先輩方が教育現場で活躍しておられる姿に直接間接に触れることになり、その諸先輩方の姿に明日の自分の姿を重ね合わせることで、教員になるモチベーションを高めています。それが今回の結果につながったと考えています。この場を借りて、「多忙の中、学生たちの学びを様々な形で支援していただいた諸先輩方に改めて感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございます。」さて、教員養成のあり方をめぐる議論はまだまだ不透明です。しかし、教育が様々な困難に直面している現実を考えれば、教員養成のあり方も大きく変わるべきでしょう。教育が

直面している課題は様々でしょうが、その根幹に関わると思われる問題について私見を述べさせていただきます。欧州の政府債務危機は、民主主義のよろさを露見させています。古代ギリシャ以来、民主主義は衆愚政治に容易に転化する危険性を持つことが自覚され、それを防ぐ工夫が成されてきました。「個・私」と「全体・公」とが直接対峙しない仕組みです。公の不在が直ちに、個の放恣に至らない。また、個の放恣がすぐに、全体・公の暴走を招来しない。個が相互にその我欲を調整しつつ自分の声をみんなに届くように練り上げていくと同時に、公も直接的に個に働くことで個の創意性を挫かないように媒介を介在させる。それが「public」と「private」を繋ぐ「common」の領域の重要な役割です。

別少集団・全体という学びの形態です。それぞれの児童生徒はそれぞれの物語を生きています。しかし、それをなまの形で表現するとクラスで受け容れられない場合があります。かといって、クラスの秩序という名のもとに各人の思いを押さえ込んでしまえば、彼らの学びは形骸化してしまいます。少子高齢化という状況の中で国際競争力を保つために、高度な能力の獲得を要求され、ただでさえ、孤立感・見捨てられ感の中であえいでいる彼らをこれ以上追い込んでしまうと学びそのものが成立しなくなかねません。そのことを多くの先生方はまさに皮膚感覚として感じ取っていらつしゃるのではないのでしょうか。だからこそ、一人一人が自分の心の奥の声を傾けてそれを明確な声にし、それらの声を小集団で相互に練り上げ、さらに全体で議論して「私たちの声」へと高めていく。これは、一人一人の放恣と全体性の横暴とを共に牽制し独自の「共」を創り上げる営みに他なりません。この作業を積み重ねることで、教育は私の声が美しく交響しあう新たな「公共空間」政治空間の形成に貢献できるのではないのでしょうか。

表紙	石井 沙知
「contrast」	菊川 國夫
題字 元愛媛大学教育学部教授	
「共」の創成としての〈学び〉の創造に向けて	壽 卓三
愛媛大学教育学部長	
心響	(2)
「自省」	
愛大附属小主幹教諭	越智 文明
学部の今	(3)
「研究室訪問〜日野克博先生今日は〜」	
「愛媛県教委と連携した教育学部学生による大震災レポート」	
「震災を忘れないため伝える」	
「魅力的な世界遺産」	(7)
久保美智代	
表紙作品「contrast」にこころ	(12)
石井 沙知	
職場だより	(13)
子どもたちの歌声	
久万高原・美川小教諭	峯本亜希子
「教師のよろこび」	
大洲・喜多小教諭	河野 寛志
「あせらず、ゆつくり、じつくりと」	
鬼北・近永小教諭	濱田 浩子
「小学校の英語活動に学ぶ」	
八幡浜・松柏中教諭	宇都宮正子
「私の選んだ道」	
愛媛銀行宇和島支店	船田祐美子
学内最近のニュース	(18)
ルイジアナ大学モンロー校のシバクマラン博士が教育学部を訪問	
ルイジアナ大学モンロー校	
(UJMC) 訪問	
教育学部卒業生木村志穂さんが「かがやき松山大賞」を受賞	
愛媛大学ミュージアムにて	
三輪田米山開催中	

自 省



愛大附属小主幹教諭
越智 文明
(昭六〇卒)

私たち教師は、なんのために子どもたちの教育を行っているのだろうか……。

昨年、十一月、ブータン国王と王妃が来日された。その際、話題になったことの一つに、GNH(国民総幸福)がある。ブータンという国では、実に九十七%の国民が「幸せ」と感じているらしい。その内実がどうなのかを詳しく語れるほど、私には見識があるわけではない。ただ単純に、そんな指標があったのか、そんな国もあるのかと、ある種の驚きと戸惑いを感じたのだ。

ある文献によると、MTVネットワークスが、世界十四か国、計五二〇〇名の子どもと若者を対象に行った調査(二〇〇六年公表)の中の、「今の状況は幸せですか」の問いで、日本は飛び抜けて最下位だった。二〇〇六年、イギリスのレスター大学のエードリアン・ホワイト氏がユネスコやWHOなどのデータを分析して行った「GNHランキンング」でも、日本は一七八か国中九十位だった。自殺者は十数年連続で三万人を超え、病院を訪れた鬱病を中心とするメ

ンタルヘルス不調者は、この十年間で倍増している。どうやら今の日本には、現在と将来に対する不安や悲観的な見方、暗い気分が蔓延しているようだ。

高度経済成長期はとうに終わり、バブルが崩壊してからもすでに久しい。しかし、今なお、経済至上主義は日本社会の形成にかかわる所に深く根を下ろし、GNP(国民総生産)は、国力を測る指標として、今も変わらず重要視されている。国際社会を勝ち抜いた



めと理由づけられた競争原理は、経済界ばかりでなく、教育の現場のいたる所まで、以前にも増して影響しているようにさえ思う。もちろん競争のすべてを否定するつもりはないし、子どもたちの成長の原動力の一つであることは間違いないと思う。しかし、絆や和、強調や協働の大切さを説く一方にある、教育の現場における過度の競争は、時として子どもたちに矛盾を感じさせ、必要以上に勝ち負

けを意識させ、精神的負担を強いる原因になっていることも、また事実だと思ふのである。

思い起こせば、二十六年前に念願の教師になった私は、いったいどれだけ、子どもたちに「がんばれ」と言ってきたことだろう。勉強ができるように「がんばれ」、部活動でいい結果が出るように「がんばれ」、がんばれば後で必ずいいことがあるから「がんばれ」、苦しいときほど「がんばれ」、「がんばれ」、「がんばれ」……。果たして、その一つひとつは、本当に励ましとして子どもたちに伝わっていたのだろうか。いや、それ以前に、本当に子どもたちを幸せへと導く励ましだったのだろうか。考えてみれば、私が子どもたちにもつとが「がんばってほしい」と願っていただけのことであって、常に子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて発した言葉ではなかったかもしれない。時には、がんばらなければ承知しないぞ、結果を出さなければ承知しないぞ、というような脅迫めいた言葉だったかもしれない。……反省することしきりである。

一九六八年、アメリカの大統領候補指名のための遊説中、ロバート・ケネディは、GNPと、それによって測られる「豊かさ」について、次のように言及している。「アメリカは世界一のGNPを誇っている。でも、その中には、

タバコや酒や薬、交通事故や犯罪や環境汚染や環境破壊にかかる一切が含まれている。戦争で使われるナパーム弾も、核弾頭も、警察の装甲車もライフルもナイフも、子どもたちにおもちゃを売るために暴力を礼賛するテレビ番組も……。」さらに、ケネディは、こう続ける。「子どもたちの健康、教育の質の高さ、遊びの楽しさはGNPには含まれない。詩の美しさも、市民の知恵も、勇気も、誠実さも、慈悲深さも……。」そして、こう結論づける。「要するにこういうことだ。国の富を測るGNPからは、私たちの生きがいのすべてがすっぽり抜け落ちていく。」

私たち教師は、なんのために子どもたちの教育を行っているのだろうか……。教育基本法に示された教育の目的や目標を実現するため。学校教育法に示された各学校の目的や目標を実現するため。学習指導要領の理念である「生きる力」を育むため……。差し障りのない答えはいろいろできそうだが、でも、教師生活が残り十年余りになった今、もう一度、それら一つ一つを丁寧に読み直し、社会や子ども一人ひとりを見つめながら、この問いの答えをじっくりと考えてみたい。

790-0903 松山市東野四丁目
乙二二二二二四

- グアテマラ通信……………(20)
- JICA(二)ア国際ボランティア
前愛媛大学教授 杉山 允宏
- 文芸……………(21)
- 俳句「俳句甲子園」 奥村 幸二
- 短歌「今日の空」 井上真佐子
- 川柳「おーいお茶」 森貞 和雄
- 水墨画「集中の心地よさ」 西島 節子
- 先輩を偲ぶ……………(23)
- 林傳次先生遺稿集
- 「把翠」を繙く(四)
- 今、教育に思うこと……………(24)
- 「明治・大正の頃の教育事情」(四)
- 上甲 修
- 「卒業して五十八年あれこれ」 小野植元幸
- 支部だより……………(26)
- 岡山新支部発足!
- 同期会……………(27)
- 「米寿の会あれこれ」 金子 六女
- 「東京駅から日帰りの旅」 昭王会東京支部の集いから
- 伊藤
- 叙勲・受賞……………(29)(23)始
- 会員の声……………(29)
- 「附属小学校の思い出」(二) 栗田 瑞夫
- 「祝 池川敏幸さん」 山上 亘子
- 「隨身像奉祝除幕式」 武田 恵子
- 「厚生労働大臣表彰を受けて」 峯本 高義
- 「お詫びいたします」
- 寄贈図書……………(32)
- 「登校拒否児たちが語る学校への」
- 「歴史的悲願像」 重見 法樹
- 同窓会への寄付者……………(32)
- 会報送料送金者名
- 敬 申……………(28)(32)
- 原稿募集……………(32)
- 放送大学入学生募集
- 第二回愛媛大ホームカミング
デイが開催されました
- ※お詫びと訂正……………(32)(33)
- 教育現場等から同窓会へ
支援要請依頼について……………(15)

学部 の 今



研 究 室 訪 問

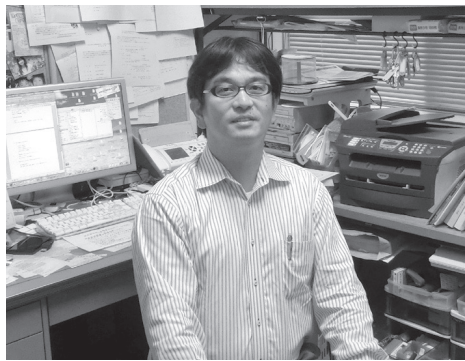
体 育 科 研 究 室

日 野 克 博 先 生 今 日 は

「スポーツ基本法」からみた体育科教育の今

向上するとは言えません。「業間体育」や「全校体育」など、学校の教育活動全体を通じて、また、地域や保護者と連携を密にして、子どもの体力を高める活動を行っていく必要があります。

私は、体力を高めることは、いろいろな効果をもたらすと考えています。「体力」とは「体の力」と書きますが、それだけでなく、様々な「たい力」が考えられます。例えば、耐える力の「耐力」、みんなで一体となる「帯力」、集団



があげられます。実は、教育目標の中で教科名がついているのは「体育」だけです。だから「体育」は大切だと言う人もいます。しかし、私は、教育目標としての「体育」と教科としての「体育」を混同して「体育Ⅱ体育科」と捉えない方がいいと考えています。教科としての体育科の中心は「体育」ですが、体育科の中には「知育」もあり、「德育」もあります。「知育」「德育」「体育」をトータルで教えるものが「体育科」です。運動に関する知的な学習や德育的な学習、そして、体を育む運動学習を行うのが教科としての体育です。だから、「体育Ⅱ体育科」ではなく、運動を媒介にして知育、德育、体育を総合的に学習するのが体育科であり、教育的な価値が高いと言えます。そのことをもつとアピールしていきたいと思っています。

ところで、今の子どもは昔の子どもと変わっているのかと言えば、基本的には変わっていないと思います。何が違うかと言えば、生活の中で動く機会が少なくなっていることでしょうか。登下校や放課後の遊びを含めて、運動する機会が少なくなっています。ある時、大学生を連れて幼稚園を訪問したのですが、幼児は大学生に甘えて遊んでいました。その後、幼児と小学生との交流がありました。小学生が来ると、幼児は小学生の言うことを「はい、はい」とよく聞いて行動していました。子どもの中には子どもの世界があつて、同世代の子どもの言うことはききんと聞かなければいけないという規範があるのだと感じました。最近、

子どもが群れて遊ぶ機会が少なくなりました。そのため、子どもの世界で身につけていたことが今は少なくなっています。改めて、運動遊びは子どもの世界をつくる大切なものだと再認識し、運動の持つ教育的価値を見直す必要があると感じました。

「保健体育教師への提言」

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。私はそれを逆にとらえています。「好きこそものの上手なれ」ではなく「上手になるから好きになる」です。子どもたちは、上手になるから運動を好きになるのであり、教師の役割は「上手にしてあげる」ことだと言えます。体育の授業で、ゲームや練習、話し合いなどの「場」を教師は設定します。しかし、それだけでは子どもは上手くなれません。上手くなるためには教師の指導や支援が不可欠です。その子なりでいいので「できた」「わかった」という経験が持てれば、運動を好きになるでしょう。子どもが楽しんでる姿の背後には、教師の意図的、計画的な指導や支援が必要だということを忘れてはいけません。

また、新学習指導要領では、知識や技能の習得とともに、言語を通じて「表現する」ことも重視されています。子どもの表現力を高めるには、表現する源となる経験や知識が必要です。話したいことや伝えたいことがあるからこそ、子どもたちは言葉にだして表現するのです。そうした経験や知識を提供

昨年（平成二十三年）、スポーツ界の新憲法といえる「スポーツ基本法」が制定されました。これまでは昭和三十六年に制定された「スポーツ振興法」に基づいていろいろな施策が展開されてきました。新しい基本法では、前文で「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と明記され、全ての国民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、そして、スポーツを支える活動に参画できる権利を持つことが示されています。昨年、なでしこジャパンがワールドカップで優勝し、国民に元気を与えてくれました。スポーツにはそうした力があるということです。この法律に基づいて、スポーツを推進するための基本計画が作成されているのですが、私もその委員の一人に任命され、とくに体育科教育の立場から意見を述べさせて頂いています。

その基本計画の議論のなかで、子どもの体力向上や運動部活動の充実といった学校体育の重要性が多くの委員から述べられています。近年、子どもの体力低下が問題になっていましたが、ここ数年、わずかですが向上傾向に変わってきました。それは、子どもの体力が危機的状況にあつた現状から体力向上に関する様々な取組が行われ、その成果がやつとみえてきたからだといえます。

ただ、向上傾向になったからといって安心できるものではありません。昔と比べると子どもの体力は極めて低い値になっています。さらに、運動する子としない子の差が顕著で、とくに運動習慣のない子どもが増えています。改めて、学校体育を充実させていく必要があるでしょう。

新しい学習指導要領では、小・中学校の体育の授業時数は九〇時間から一〇五時間に増えました。しかし、体育の授業だけで体力が

するのも教師の役目です。教師は、子どもが夢中になれる「場」を設定するとともに、上手くなるための手立てを準備する必要があるでしょう。そのためには、教師の経験や知識も重要になってきます。知識がないと、ただ単に「頑張れ、頑張れ」「いいよ、いいよ」としか言えないのです。自分が経験して、自分なりの「コツ」や「カン」を持ったリ、研修や他の教員から指導ポイントを教わることが大切です。そういう実践知、経験知がないと動きや技を指導するのは難しいです。

一方、小学校では、体育が必ずしも専門でなく、体育にマイナスのイメージをもっている教師もいます。体育の苦手な教師をサポートすることは、よりよい体育授業を改善していく上で大きな課題です。そうしたサポートの一つとして、体育専科や小学校体育活動コーディネーター等が推奨されています。私は、小学校の場合、専科というよりもコーディネーターとしての役割を期待しています。

体育は学級経営とも深く関係しています。そのため、担任の先生の補助的な立場でTTとして指導したり、体育が苦手な子どもへの個別指導、また、学校全体の体育活動をデザインすることをサポートできる教員が必要だと考えています。とくに、体育は教科書がないため、低学年、中学年、高学年で何を身につけさせるかを明確にし、全体を見通せる立場でのサポートがこれからはより大切になってくると思います。

また、中学校では、とくに女子

生徒の運動習慣の確立が課題になっています。文部科学省の調査では、一週間に六十分も運動しない子が三〇%を超えています。中学校では運動部活動が重視されています。しかし、運動習慣のない子の多くが、運動部活動に入っていないません。運動部活動も競技志向だけでなく、多様なニーズの生徒に対応できるように再編するなど、さまざまな検討が必要でしょう。

これらのことは、最終的には教師の指導力にかかわってきます。中学校の運動部活動では保健体育の免許を持った教師だけでなく、他の教科の教師も指導にあたります。教員免許法では「体育二単位」が全ての校種の免許で必修になっています。これらは、一般に大学の共通教育の中で指導されています。私たちは、他学部の学生も含めて保健体育の免許を取らない教師志望の学生に対しても、体育的な知識や技能を身につけさせるための授業改善を図っているところです。

学生との地域連携活動を通して、愛媛大学では総合型地域スポーツクラブを運営しています。その活動の一つとして、県内の小学校に学生をスポーツ指導者として派遣しています。また、私自身もよく県内の学校に指導に行きますが、その時は学生にも声をかけ一緒に参加します。学生が直接指導したり、私の指導を補助してくれます。学生にとっては実際の子どもを指導する貴重な経験の場になっています。

また、学生が学校訪問すると、子どもたちはニコニコと元気になります。若い学生と一緒にいると、子どもたちはいつも以上に張り切ります。学生は「現場の先生は凄いですね」と子ども相手でもへとへとになりながら、生きた現場を直接肌で感じているようです。そうしたことから、学生には、学校現場との「距離感」が重要だと伝えられています。大学に入るまでは、現場に最も近いところにおいて、身近に教師と接し、教師になりたい気持ちで大学に入学してきます。その後、大学に入学して学校現場との「距離感」が遠くなる学生は教師への志望がだんだんと薄れていきます。逆に、地域連携実習などを活用して、学校現場との「距離感」を保っている学生は、教師になりたい気持ちを持ち続けています。私も大学時代は、積極的に学校現場に足を運びました。学校現場から学ぶことは少なくありません。現場でみただけことを大学で話すとき、もう既に現場では次の新しいできごとが起きています。

ある意味、学校は教育の最先端です。学生も、ぜひ学校現場から学ぶ意識を持ち続けてほしいと思っています。

一方、入学当初は教師への憧れがあつたはずなのに、教員採用の厳しい現実を知り、進路に迷いを持つ学生も少なくありません。学生のニーズは多様化しています。教育学部で学んだことを一つのキャリアとして生かしていただける職業を選ぶ学生にも様々な支援していかねばなりません。そうした学生も含めて、私たちの役目は、

学生を「本気にさせる」ことだと思っています。学生は本気になれば、一生懸命努力します。近年、学校現場で「キャリア教育」が行われていますが、本当に必要なのは大学における「キャリア教育」だと思います。一人の教員では多様化している学生のニーズに対応するのは難しく、大学の組織として、また、教員間や後援会、卒業生とも連携を取りながら、より一層学生指導を充実させていく必要があるでしょう。

卒業生・同窓生への呼びかけ

ここ十年位、特に教員養成系大学では全国的に教育改革が進みました。従来から教育実習等があったのですが、「教育は人なり」というように、どんな教員をどのように養成するかという視点で、教員養成のカリキュラム全体が改善されてきました。今の教育学部は、おそらく以前のイメージとは随分違うものになっていると思います。大学側も情報発信しなければいけないのですが、カリキュラム改革をする時点では、愛媛大学は他大学よりも少し遅れていると言われているのですが、今では、他大学にも負けない教員養成カリキュラムを構築できていると思います。おそらく、以前では経験できなかったことを、今の大学生は主体的に動けば様々な経験ができる環境にあります。これから教員になる学生には、大学で経験したことを実際の学校現場で活用してほしいと思います。それを基に大学と学校現場が、大学と卒業生が上手くつながり、お互いが双方向

性の絆を強めたいものです。私の周りでは、学校現場と大学との垣根は随分下がってきている印象です。ですので、遠慮なく大学を活用してほしいと思います。声をかけていただくと、私たちは現場を知るチャンスでもあるので、喜んで参加させて頂きます。最後に、最初に述べた「体力」のように「教育」もある言葉に置き換えて考えることができます。例えば、郷土の「郷」とつて「郷育」です。これは「故郷で育てた学生が、愛媛の教育を支えてほしいもの」です。また、仲間と共に高め合ったり、助け合いながら育む意味で「共育」や「協育」という言葉も考えられます。さらに、心に響かせて育てることから「響育」という言葉もあります。今の大学生に講義していて感じるのは、最終的には大学生の心に響かなければ何も入っていかないということです。心に響かなければ、人には伝わらないし、人は変わっていきません。教育は「教えて育む」ものではなく「心に響かせて育む」ものだと思っています。おそらく、スポーツの名監督は、スポーツのスキルよりも、心に響かせる人間的な魅力を持った人だと言えます。だから、その人を信頼して、本気になり一生懸命努力するのでしよう。なかなかその域には達していないのですが、これからは学生に響く教育を意識して、よい体育教師を育てていきます。

愛媛県教委と連携した 教育学部学生による大震災サポ-ト

教育学部は、平成十五年に愛媛県教育委員会と独自に連携協力の覚書を結び、多様に連携事業を展開しているが、本年八月「東日本大震災児童生徒サポ-ト事業」を連携実施した。

本事業は、被災地宮城県坂元町に、愛媛県教員十五名、愛媛大学教育学部学生九名を三班に分けて派遣し、子どもたちの夏の学習・生活支援を行おうというものである。



サポ-ト活動の様子

尚、教育学部からは別に、教員一名が帯同し、全体として大きな成果を上げた。

◎参加者の感想

吉村 直道（教育学部准教授）

震災から五ヶ月経っていたからでしょうか、出会った生徒たちはみな元気でした。駅伝大会に向けて全校生徒が懸命にグラウンド及び校外を走っていました。

しかし聞いてみると、家がなくなり仮設住宅や親類の家から登校していました。このような状況は生徒たちだけではなく、教職員の方々も同様でした。そして、家で机がなかったり本がなかったりで学習できる環境にないため、夏休みも学校に来て、遅れている学習を何とか取り戻そうと努力する毎日でした。日常を、大人と子どもそしてボランティアの方々、いろいろな人たちが関わりながら

一生懸命つくりだそうとしていました。

そんな状況下での学習はどちらかと言うと成果主義的な学習—受験勉強—中心でした。ただし、生徒たちのことを考え「学習が将来を構想し夢を実現させてくれる、頑張れ」という思いを支えられたものでした。生徒たちも、いろいろな思いを知り（感じ）、いろいろな思いを隠しながら、それを受け入れ学習していたように思います。少しつらく悲しい学習に見えました。

そんな学習だからこそ貴重な存在であり大いに活躍してくれたのが、本学の教育学部生たちでした。あついメッセージをもって指導をする現場教員と生徒たちの間に入って、生徒たちの声を聞き、時に相談を受けながら学習を支援していました。特に印象的なのは、学習支援の時間だけでなく、休憩時間にこそ大学生たちは生徒たちと関わりコミュニケーションをとってくれていたことです。このような活動ができる本学の学生を頼もしく思うと同時に、このような活動に積極的に取り組むことが

学生の力を大いに伸ばさせてくれると感じました。

このような災害はあつてはならないことですが、子どもと距離の近い大学生の力を借りながら、大学生を中心とした、学習支援のボランティア構想こそ、教育学部のできる復興支援ではないかと考えました。

縄田 志保（教育学部四回生）

私は、今年の夏、東日本大震災児童生徒サポ-トチームという活動で被災地である宮城県を訪れる機会を得ました。一週間の滞在期間の中で、現地の中学生への学習支援、被災地の見学などを行いました。

その中で、子どもたちにとっての学校という場の重要性を改めて感じました。家族や家をなくした子、仮設住宅から通っている子、様々な状況の子がいました。現地の先生のお話によると、震災から五カ月がたつても、家で安心して勉強できる環境が整っている子は、ごくわずかだそうです。しかし、私が出会った子どもたちは皆、勉強や部活に一生懸命に取り組ん

でいました。これは、学校が子どもたちにとって安心してものごとで済ませよう。その学校は、先生方の「子どもたちのために。」という熱い気持ちに溢れていました。

宮城県では、子どもたちや先生方、ボランティアの方々、宮城の人々、観光客の人たち、たくさんの方の笑顔と、前へと進もうと努力されている姿が見られました。その姿を見て、もし自分が学級担任の立場だったら（一教師として）、被災した子どもたちに、被災地外の愛媛の子どもたちに何が伝えられるだろうと考えました。正直なところ、まだ現地での体験を自分自身がうまく消化できておらず、明確にその答えは出せません。しかし、私にも現地で過ごした一週間の間で、人々の支え合い、つながり、命の重み、学校や教師の支援の重要性など、誰かに伝えたいと感じたことがたくさんあります。今回の中学校とのつながりを一度きりの活動で終わらせるのではなく、自分自身これを新たなスタートにできたらと思います。

震災忘れないため伝える

被災地の企業に研修

新聞作成、地域紙の使命学ぶ



震災への思いを取材する研修生ら＝猪川小

内閣府による地域雇用創造・インターンシップ事業が大船渡市大船渡町の(株)東海新報社(鈴木英彦社長)で八月二十二日から九月三日まで実施された。この事業の第四期生である愛媛大の越智優さん(二十一)、徳島大の河端愛さん(二十一)、広島市立大の安田華子さん(二十一)は、記者として研修に臨み、新聞作成のノウハウや地域紙の使命について学んだ。三人が記事を書くにあたって掲げた共通テーマは「震災のことを忘れないために伝える」。震災の被害が風化することを懸念し、人が生き抜くためには被災地や被災者の事実を伝えていくべきだと考えた。三人は、今回被災した方に震災当時のこと、気仙地域の将来等について取材を通し、それぞれの思いを総括した。



愛媛大学 二年
越智 優 (21)
愛媛県今治市出身

伝える責任、岩手から愛媛へ

震災から六カ月。震災関連の全国報道は、徐々に減少してきている。この震災は、やがて風化し、ひとつのようになってしまうのではないかと。同じ日本人として悲しい。震災を忘れないために、被災した方の想いや被災地の事実を伝えたくてこの地にやってきました。

取材を通し、さまざまな人に出会えた。涙ながらに語ってくれる人もいた。生き延びた人も、誰かしら大切な人を失っている。携帯の電話帳には何人残っているだろう。心身ともに無傷な人はいないのでないか。

今でも、毎日行方不明者が発見される。人々の感覚の中で当たり前のことになってないか。これは、尋常なことではない。慣れからか、命に関する感覚はマヒしてしまっている。

津波は、人も町もすべて流してしまっただけで、町には希望がある。地域文化や歴史は人々の心には生きつづけている。自らも被災者でありながら、よりよい町へと、

地元を愛する熱いビジョンを持った人がたくさんいる。地域主体のまちづくりと産業の復興を目指して、千年先まで町の未来を構想する人々。

防災・自然エネルギー都市として、新しい地域構想がうまれていく。そして何より、地域の伝統と文化を継承しようとする漁業・農業に復活を懸ける人もいる。震災に負けず、乗り越えようとする気持ち、人が支えている。気仙地域は、二十、三十年後、日本の地域構想のモデルになる。これまでとは違う、新しい町が形成されるだろう。

「地元に戻ったら、ここで感じたありのままのことを伝えてくれ」と記者さんの言葉が忘れられない。これは、自分への使命である。将来、地元で教師になって、ここで感じたことや学んだこと、何より人々の想いを後世に伝えたい。

これからの社会を担う子どもたちに災害や命の大切さ、人とのつながり、町の未来について地元のことで考えてほしい。そうすることで地域の特徴を再確認し、よりよい地域社会を形成する一員として、自覚を持つことにつながる。

被災地の状況、復興はひとつではない。これからは東北のことだけでなく、伝えていくことが自分のミッションである。

見守る支援 校長の願い

猪川小・鈴木校長

猪川小学校(児童三百十八人)の鈴木一司校長(五十五)は、大船渡警察署で会議中被災。午後三時十三分には同校に戻り、子どもたちと共にグラウンドに避難。泣いている子や、教員にしがみついた子を励まし、背中をさすり合いなから大津波警報が解除されるのを待った。

現在は子どもたちに支援物資を通して送り主の想いを考えるように指導。支援していただいた人たちに感謝することで、子どもたちは震災のことを間接的に振り返ることができると考える。現段階で直接震災について学習することは、子どもにとってトラウマになりかねない。スクールカウンセラーの設置など心のケアの必要性を訴えた。

物資支援には感謝しているが、「物がタダで貰える状態が続くのは子どもたちにとってよくない。通常の学校生活を送ることが子どもたちには必要。支援は気持ちだけに留め、見守ってほしい」と語る。今回の震災を受けて「命の大切さ、助け合いのすばらしさを全国の人に伝えたい。子どもたちには、思いやりがあつて、力強く人生を歩んでいける人になってほしい」と願う。(注 東海新報より)

THE TOHKAI SHIMPO

東海新報

平成23年(2011年) 9月4日 日曜日

第16135号

日刊(月曜日休刊)

負けるな 心をひとつに
気仙!!
復興目指して 一歩ずつ前へ!!

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「魅力的な世界遺産を学ぶ旅講座(一)」

講師 旅する世界遺産研究家

久保美智代氏

(平七年卒)

自己紹介

愛媛朝日テレビに入社直後、久米宏の報道番組『ニュースステーション』の桜中継で全国デビュー。久米キャスターとの対話の中で「保内町初のアナウンサー」として自己紹介し、笑いを誘う。



また、笑福亭鶴瓶司会の「らくごのこ」に出演。マイクを忘れて登場し、新人アナウンサーらしい、ういいういしい一面も見せる。

その後、念願のニュースキャスターを目指し、清水の舞台から飛び降りた気持ちで、東京へ。フリーアナウンサーとして活躍し、フジテレビの報道番組『スーパーニュース』にも出演を果たす。

皆さん、私の十年前はこのような様子でした。あこがれだったテ

レビ業界に就職しましたが、十数年ほど前までは、この教育学部の

中学校教員養成課程で国語の中学校高等学校の教員を目指しておりました。久しぶりにこのキャンパスに入って、友人や先生方、サークル活動など多くのことを思い出しています。当時若手新人としていらつしやった三浦先生が今では一番古い先生になっていて聞き、時代の流れも感じました。

又、キャンパスも、私が学生生活していた時よりすっかりきれいなになり、設備が充実していて大変驚きました。

さて、これまで私が訪れた世界遺産は、四十八カ国、二百九十三カ所。今年は三百カ所達成を目標にしています。

皆さんは、旅に出るとき何を参考にされますか。TV、写真、ガイドブック等をご覧になると思いますが、でも、旅の一番の面白さは、それらのどこにも書いていないことーそこに住んでいる人たちとどれだけコミュニケーションを取れるかーと言う自分だけの経験です。それが行った人自身の宝物になってくるのです。

現地の人と仲良くなるためにまず実行しているのは、現地の言葉で挨拶すること。ボンジュール、チャオ、ニーハオ……など私は

ざっと十五カ国語の挨拶を覚えていきます。言葉は文化ですから、その国の言葉で挨拶するということは、相手の文化を理解しようとしているという意味表示なのです。次に、「My name is Michiko」と自己紹介します。でも普通に言ってもなかなか覚えてもらえませんが、そこで、「美 is Beautiful」「智 is wisdom」「代 is forever」というように、意味を説明するので。漢字の良いところは、一つ一つに意味があること。「美しく、知恵があり、それが永遠である」どうです、完璧でしょう！お陰様で、その通りに育ててもらいました。(笑)

私がアナウンサーになりたいと思ったきっかけは小学五年生の時でした。それまでは、どちらかといえば静かな性格で、授業中は、答えが分かっても挙手することが出来ず、先生に指名されて渋々解答するといった状態でした。しかし、私の明るさを引き出して下さったのは、その時の担任の先生です。私を放送委員に任命してくださり、校内放送を始めたのです。皆の前でお喋りしたり、動作をしたりすることが、だんだん楽しくなってきました。もう中学生の頃にはアナウンサーになろうと決めていました。多感な時代に役割を与えられることは、人生に大

きな影響をあたえるものだなあと痛感いたしました。

中学時代、教頭先生にお会いする度に、「久保さんはアナウンサーに向いているのではないかね。まるでNHKの宮崎緑(当時有名なアナウンサー)さんのようだね。」とおっしゃられたのです。それを真に受け、家でNHKのニュースを見ながら、格好いい身だしなみで颯爽とニュースを読んでいる宮崎緑さんを何度も真似していました。

なぜ愛媛大学教育学部に入学したのかといいますと、高校三年生の担任の先生が、「久保さんアナウンサーになるのだったら、綺麗な日本語が喋れないとだめでしょ。国語科の道に進みなさい。」とおっしゃったのです。よりにもよって、私が最も嫌いな国語科を勧めるなんて……と思いましたが、当時、どうすればアナウンサーになれるかなど分からない私は、先生のおっしゃることにも一理ある！と思えました。ちなみに、その先生の教科は国語です。更にアナウンサーになるのは凄い倍率なので、国語科で日本語を勉強しながら手堅く学校の先生も目指すのが賢い選択だと思えました。そこで、愛大放送研究会に入って、大学生生活を充実させて行きました。私が入社した四月一日、その日が愛媛朝日テレビの開局日、記念すべき第一期生。そして、私の全国中継デビューが、『ニュースステーション』の桜中継でした。

いきなりの抜擢で本来は驚くべきところでしょうが、先輩がいない局でしたし、新人で事の重大さや分かっていなかったもので、「保内町初のアナウンサー」という大胆な発言が出たのでしょう。のちに、保内町長にお目にかかる機会があり、とても喜ばれました。(笑)

ところで、テレビの開局と言うと競争倍率は非常に高く、書類審査だけでも三千人以上あったそうです。その内アナウンサーとして採用されたのは、男性二人、女性三人でした。

就職試験は本当に厳しいものでした。アナウンサー募集は、北は北海道から南は沖縄まで全国であり、東京や大阪などの大きい局から始まります。最初は、なかなかうまくいかず、少しずつ、自信をなくしていききました。アナウンサー試験というのは独特なものが、ありますからね。そんな時、私の先輩で南海放送のアナウンサーをしていらつしやる合田みゆきさんに相談したのです。「どのようにすればアナウンサーになれるのでしょうか？」と。先輩は「先ずお化粧、髪型、それに服装。洋服は何を着て行っているの？」と言われしました。「今度も、リクルートスーツを着ていこうと思っ

持ちになりませんか。たくさんの希望者の中から又後で思い返せるという存在―他の面接試験でもそうだと思いますが、特にアナウンサーの場合はそれが強いのです。試験会場に行くリクルートスーツを着ている人は一人もいませんでした。ピンク、黄色、パステルカラー等、中にはミニスカート履いたモデルさんのような方もいて、凄く雰囲気でした。

私の場合、清楚で元気なイメージにしたいと考え、当時から着ていたパーマをおとしてストレートにし、お洋服は（これがポイントなのですが）オレンジ色のスーツを買いました。

さあ、次は自己PR。「この会社が好きです。頑張ります。」などいくら言ってもダメ。頑張りな人はいないはずですから。だったら自分にとって一番アピールできるものは何かと、就職活動をするときに、初めて自分を突き詰めました。その結果、「愛媛県保内町というミカンの段々畑と穏やかな瀬戸内海に囲まれた小さな町で、すくすくと成長してきて今がある。そこをもっとアピールしなければならぬ。特に、愛媛朝日テレビは愛媛県にあるので、地元出身を強調しなければ―」と思い、オレンジミカン色のスーツを買ったのです。そして、カメラテストの際、「私は生まれも育ちも愛媛県です。故郷が一番有名なのはミカン。私はミカンが大好きです。ミカンと言うとつい手をの

ばしたくなる親しみやすさ、私はミカンのようなアナウンサーになりたいです。見てください。今日の服を―」と訴えました。そうしたら合格したのですよ。三千人のうちからですよ。

入社後、カメラの向こうで審査されていた偉い人とお会いする度、「おい、ミカン娘!」と呼ばれるようになりました。「今や、娘と言われる程の歳ではないのですがね。」(笑)

自分の思いをいかにうまく伝えるか。その大事さを痛感させられたのは、実は、就職試験よりも愛媛朝日テレビを退社して、東京でフリーになった時でした。

テレビ局勤務の時は、天気予報、ニュース、バンジージャンプのリポーターなど次々と仕事が入り、本当に忙しい毎日でした。でも、もっと広い世界を見てみたいと、フリーとして東京に行き、タレント事務所に所属して仕事を探すことにしました。しかし、全然仕事が決まらないのです。ここでは、マネージャーがついているのですが、オーディションの仕事を持つてくるだけ。ナレーション、司会、コマーシャルなどどんな仕事もオーディションで勝ち取らなければ出来ないので。

就職試験よりももっと厳しいのですよ。周りは実力のあるプロばかり。就職試験以上に、自分にはかなない武器は何か、それを培っていかなければ、この世界では生きていけないのです。

はじめは意気揚々と出て行ったのですが、思い通りにいかなくて、悶々とした生活が続きました。そこで思いついたのが「旅」です。以前はスケジュールに追いかかられた生活をしていたので、今はスケジュールが入ったとしても、自分サイドである程度の調整が出来るので、それを利用したらと考え、行ったのがアメリカです。テキサス州からレンタカーを借りてカナダとアメリカの国境を走り十二日間かけて縦断しました。

アメリカ大地は行けども行けども地平線。右も左も赤土の荒涼たる風景がどこまでも続き、そこにオブジェのような岩が立ち並んでいます。

そこでサングラスをかけて、ラジオのボリュウムを上げて、アクセルを踏む―そりゃあ開放感がありましたよ。アメリカは広大ななあと思いましたよ。何でこんな大きな世界に気がつかなかったのだろう。もともとと大きな世界があるのに、何でこんな小さな日本という国のさらにもっと小さな東京であがいているのだろう。日本に帰ってきて、たまたまTVをつけてみた時、アメリカのグラウンドキヤニオンが放映されていて、それが世界遺産であると知り、それが世界遺産であるとは何だろう。その時はまだ詳しく報道されていなかったもので、図書館に行って調べてみると、エジプトのピラミッドはもちろん、ペルーの

マチユピチュ、フランスのモンサンミッシェルなど色々面白く興味を引かれるものがあり、いやーこれは凄いなものを見つけたとの思いがありました。それ以降、時間を作っては一カ所ずつ訪れるようになり、今振り返ってみると二百九十三カ所も行っていいのです。

それだけではありません。世界遺産を観光するだけでは飽き足らなくなってしまう、今度は世界遺産のあるところに住んでみたいと思うようになりました。そして、引越したのが奈良の都です。

平城宮跡のすぐ近くに家を借りまして、だだっ広いのっぺらの遺跡の中を華やかだった奈良時代を想像しながら真っ赤な自転車で駆け抜けるんです。二十分くらい行きますと、東大寺や春日大社がありまして、鹿を見ながらのんびり奈良公園を散歩するのも楽しみの一つでした。

そして、つい昨年まで住んでいたのが姫路です。折角住むのですから、毎日世界遺産が見られる所に住んでみたいと思いませんか。そこで、ガラッと窓を開くと目の



前に姫路城の天守閣が見える九階建てマンションの八階に引っ越ししました。真っ青な空にくっきり浮き出る姫路城、雨模様でぼーっと雲に煙る姫路城、そして、春は桜の雲の上に聳えたつ姫路城、最高だったのは雪の日です。滅多にない降らない地域なのですが、雪が降ったと言えば直ちにカメラを持って駆けつけると、三の丸広場からの眺めはモノクロの景色になるのですよ。まさに天守閣は私の庭、いやー毎日世界遺産に接することがこんなにも幸せなのかと思いました。これをきっかけに日本の城郭建築にも興味が生まれてきて、現在は、日本百名城も回っています。世界遺産のおかげで、興味がどんどん広がっていくもの面白いところです。

そして今、愛媛大学に帰って皆さんにこの様なお話をすると夢にも思っていないませんでした。これまでの講演回数は二百回を超えましたが、最初から狙って旅をしていたわけではありません。

好きで旅をしていたら、ある時、仕事でお世話になった埼玉にある明海大学の名誉教授に「久保さんの趣味は面白いね。今度、大学祭で話してみてくれないかい」と言われ、初めて学生さんを前に講演しました。それからどんどん依頼がくるようになり、年間三十回以上行っています。

私の願いは、若い世代の皆さんにもっともっと世界に目を向けて欲しいということ。時々、小中高

へ出向いて世界遺産の授業をしています。でも、教育機関に入り込むのは難しく、時間がかかりました。まずは、実績を作って信用してもらおうと、最寄りの高校に足を運んで、ボランティアとして授業をさせていただきとお願ひしました。世界史の時間に模擬授業をさせてもらって、生徒さんに感想文を書いてもらい、それを持ってユネスコアジア文化センター奈良事務所で事業として取り入れてもらえないかと売り込んだのです。それからもう六年続いています。今改めて振り返ってみると、大学時代に教育学部で勉強をして、アウンサーという職業について、今は自分の好きな世界遺産を旅している——。その一つ一つを見る

と全然、繋がりが無いような気がしますが、こうして教壇に立つ経験は教育実習で学びましたし、人を引き付ける話し方はアウンサーの技術、話している内容は大好きな世界遺産です。これまで経験してきた総てのことが積み重なって、今があるのだなあと強く感じます。

常に言えるのは、「人生には無駄がない」ということですね。一見、無駄に見えることも巡り巡って将来の役に立つかもしれないのです。それが、人生の凄く面白いところ。無駄がない人間の方がつまらないですね。

私の世界遺産の旅もそうでした。母からは「そんなに旅行ばかりしないので結婚資金でも貯めなさい」と嫌と言うほど言われました。旅行は単なる道楽—そう思われていたのです。それでも私はお金を全部遣ってでも世界遺産を見

た。旅行は単なる道楽—そう思われていたのです。それでも私はお金を全部遣ってでも世界遺産を見

た。旅行は単なる道楽—そう思われていたのです。それでも私はお金を全部遣ってでも世界遺産を見

た。旅行は単なる道楽—そう思われていたのです。それでも私はお金を全部遣ってでも世界遺産を見

ず出る質問の一つは、「お金はどうしているのですか？」ということ。子供たちは現実的ですね(笑)。実際、アウンサーという職業なので、仕事で行ったと思われるがちなのですが、全部自費なのです。今までそういう美味しい仕事に巡りあわなかったという現実もありますが……。ですから、行き先や見たいものはすべて自分の好奇心のままに決め、自ら計画を立てて出かけます。私の写真は、皆さんと同じ旅人の目線でもって撮ったものなのです。「いつ行くのが良いですか？」という質問もよく受けますが、その時、自分が行きたい場所、見たい場所がその人の旬の世界遺産です。

では、私が人生をかけて語る世界遺産のどこが面白く魅力的なのか、何を学び取れるのか、そういう点について、詳しくお話ししていきます。

まずは私の撮った写真の中から特に好きな五十カ所を選びました。スライドショーにして見ても「スライドショー上映」

いかがでしたか？
世界遺産には、建物、島、山、モニュメント、自然などいろいろな分野がありますが、この写真は、私が行った中で、一番印象に残る街の世界遺産です。

クロアチアのドゥブロヴニクです。ここはイタリアの東側でアドリア海を挟んだ対岸にあります。以前はユーゴスラビアの一部でし



た。

この海の色を見てください。真っ青でしょう。輝くばかりの深い青、私が色を塗っているんじゃない、私がいんです。そこによりきと美しきと張り出した半島に町が出来ました。中世の町並みを残すところ、この半島の付け根を分厚い壁で区切ってしまったら天然の要塞です。昔は海が玄關で、自由貿易で栄えました。真っ青なアド

リア海を背景に、白壁とオレンジ色の屋根で統一された町並みが絵画のよう。その美しさから「アドリア海の真珠」と呼ばれていま

す。この高台からこの町を見ると美しくて美しくて//でも、私が感動しているのは、町の美しさだけではないのです。完璧に中世の面影を残す町に見えるのですが、クロアチアという国は、一九九一年にユーゴスラビアから独立を宣言

しました。しかし、それに反対した連邦政府軍がクロアチアを攻撃して内戦状態になったのです。こ

の国の各地で戦争が起きました。ただ、このドゥブロヴニクという町は、一九七九年に世界遺産になっていましたし、「アドリア海の真珠」として知られていたのも、住民たちはまさかこんな美しい町に爆弾をおとすまいと思ってい

ました。しかし、現実はずいぶん違いました。なんとこの地に二千発の爆弾が打ち込まれ、七割近くの建物が全半壊したのです。でも、町の人

の誇りはこの美しい町でしたから、バラバラになった破片を海から拾い集めてそして美しかった元の佇まいそっくり修復したので

す。戦争の記憶もそこだけを見ると無くなっていますが、山頂にあるロープウェイの駅は、破壊されたまま廃墟のようになっていま

た。そこを踏まえて現代の歴史を重ね合わせて見たとき、この「アドリア海の真珠」がより一層輝いて見えました。

つまり、世界遺産というのは、見た目の美しさだけでなく、長い歴史を生き抜いてきた、目に見えない物語が隠れているのです。

これを自分自身で発見したとき、感動は何倍にも増します。

さて、ここで質問です。今日現在で、世界遺産は何カ所あるのでしょうか。①四百九十、②六百九十、③八百九十どれでしょう。

正解は……八百九十です。数だけからみると、大変多いと思われる

ますが、国連に加盟している国や



地域は約百九十あり、世界遺産条約の締約国の数はそれに匹敵します。もし、各国に世界遺産が十カ所ずつあったとしたら、それだけで千九百カ所になります。

日本は今、十四カ所の世界遺産がありますが、四国八十八カ所、長崎の教会群、富岡製糸工場、平泉、小笠原諸島などまだまだ世界遺産に登録したいと名乗りを上げています。どれも日本が誇る素晴らしいものばかり。それを考えると世界にはとても数では区切れないほどの貴重な文化や自然があるということだと思っています。

この写真を見てください。これもまた、私が一押しの世界遺産です。ベルギーの首都ブリュッセルにあるグランプラスです。「世界一、豪華な広場」と言われていて、周りを取り囲んでいる建物がなんと華麗で重厚なこと!!

このグランプラスが最も華やかに輝くときが二年に一回あるのです。広場に一面に敷き詰められた絨毯、これは何でできていると思いませんか？

はい、正解です。お花です。しかも、すべて生花、花の部分だけを採って丁寧に並べて作るのです。ですから、たった三日間だけ、ちよと日本のお盆の時期に開かれます。飛行機代が一番高い時ですが、行く価値は十分にあります。続いて、世界遺産の基礎知識です。その種類は三つに分かれています。

一つは、文化遺産。例えば、人類が創り出した傑作と言えば、インドのタージマハール、優れた建物としての姫路城等々。

それに対して、自然遺産。地球の歴史を示す自然と言えば、米国のグランドキャニオン。大地をコロラド川がえぐり取るようにして浸食した深い峡谷で、まさに地球が出来る過程を実証しています。また、美しい景色のオーストラリアのグレートバリアリーフは、日本の国土と同じ位の面積をもった珊瑚礁です。それから、生態系です。タレントの珍獣ハンター、イモトさんも行ってた、世界最大のトカゲ、コモドドラゴンが生息している保護区などもそうです。

そして、もう一つ、文化遺産と自然遺産の両方の価値をもっているもので複合遺産があります。実は、これが世界遺産の画期的なところ。世界遺産条約ができるまでは、文化と自然は別々の条約や法律で保護されてきました。だつて、自然だけを完璧に護ろうとしたら、早い話、そこに住んでいる人をすべて追い出してしまえばいい。

文化を発展させることは、ある意味、自然を壊すことにもつながります。だから、同じ枠組みの中で考えていくという発想にならなかったのです。しかし、世界遺産条約では、自然の中に人の営み、文化があることが素晴らしいと強調し、その両方を調和しながら守っていかねばならないということで、複合遺産があるわけです。これからは、ちよと変わった世界遺産を次々と紹介していきましょう。

エジプトのピラミッドは誰でも知っていると思いますが、これは、メキシコのマヤ文明「チチェン・イツァ」のピラミッドです。エジプトのピラミッドと比べてみてください。見た目で決定的に違うところがあります。それはどこでしょうか。

そう、階段があることなんです。四角錐の四面すべての真ん中に長くて急な階段があります。エジプトのピラミッドには階段が無いので登るものではないということですが、マヤのピラミッドには階段がある、つまり、登っていったら、最上段で儀式をするのです。しかも、一面にある段の数は九十一段。それが四面にありますから、91×4=364。そして一番上に共通して一段ありますから、それを加えると三百六十五。そうなんです、これは神殿でもあり、マヤのカレンダーでもあるのです。

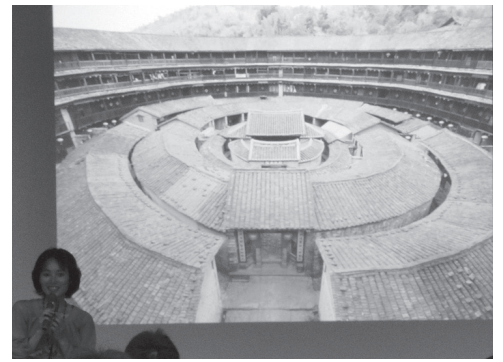
こうやって農耕に携わる日を知ったのです。ちなみに、このピラミッドの中にも入ることができません。中にいるのは、チャックモールという石像。神へのメッセンジャーです。顔は可愛らしいのですが、お腹の平らな部分に生きた人間の心臓を置いて儀式を行いました。チャックモールとは、マヤ語で「雨の神様」、周りは密林のジャングルですから、雨の到来を祈ったのでしょう。これがマヤの文化です。

次の写真をご覧ください。正面に祭壇があつてシャンデリアがぶら下がり、綺麗なダンスホールか、教会かなと思うかもしれません。実はこれ、地下百層の世界につくられていたんです。ポージランドにある「ヴィエリチカ岩塩坑」と言います。岩壁から白く噴き出しているのが塩。通常の岩塩坑はせいぜい五百年くらいが寿命だそうですが、ここは十三世紀から約七百年間も掘り続けられました。それで、総延長は三百キロメートルに



あります。人も馬もずーっと地下にこもって掘り続けた訳ですから、博物館があつたり、体育館があつたり、療養所も作られました。そして、ここでの作業は命がけですから、祈りを捧げるための作られたのがこの礼拝堂なのです。壁を見てください。名も無き坑夫たちが彫った「最後の晩餐」も残っています。そして、天井からぶら下がる豪華なシャンデリアは塩の結晶でできているんです。最近はこちらで結婚式を挙げる人もいます。こうして、人の営みに関する世界遺産を「産業遺産」と呼んでいます。

続いて、これは何でしょう。昨年撮った写真です。これは中国の「福建の土楼」です。福建省と言えばサントリーの烏龍茶が有名ですが、周りは全く山に囲まれて、茶畑や段々畑が続く山村にあります。それぞれの建物の形に注目してください。真ん中は四角で周り



に襲われて、どんどん南へ南へと追いやられて、ついには福建省のここに家を建てるまでになったのです。しかし、山の中なので獣がいるかも知れません。山賊にも襲われるかも知れません。そこで、家族みんなを守るために、皆のよくな家を築きました。だからこの写真と比較すれば分かると思いますが、一階、二階には窓がありません。三階以上には見張りが出来るぐらいの小さな窓が作られています。

は円形。これは楕円形をしていてスタジアムのように。この形から「梅の花」とも呼ばれています。これらは土を押し固めて作ったものですが、何をやる場所だと思われませんか。そう家です。大勢の人が住む集合住宅なのです。一番大きな所で七百人が住んでいました。福建省には大小の土楼が約二万基あると言われています。あまりに変った形なので、一九六〇年代、米国の偵察衛星がまるでミサイルの発射基地だと誤認して、ハワイトハウスに報告したという逸話もあります。

中はどうなっているかと言えば、たとえば、このように一つ一つが部屋になっています。そして、なんとここに住んでいる人は全部名字が同じ(驚きの声)なのです。本当ですよ。つまり、同じ一族がここで暮らしているのです。これを作ったのは漢民族です。黄河流域に住んでいましたが、北方民族



とすると同時に、私の故郷八幡浜市のミカン畑も捨てたものではない。次の世界遺産かなと思いましたが。

昔は「多子多福」と言っており、沢山子供が生まれるほど、幸せが生まれるとの考え方だったので、沢山子供が生まれ、出世すると、どんどん大きな土楼を作ったのです。しかし、今の中国では一人っ子政策、そして、農村から都市への人口流入等がありまして、ここに住んでいる人の数はどんどん減少しているのです。それを食い止めるために世界遺産になったとも考えられます。因みに空いている部屋は民宿になっていまして、私も泊まりました。土楼での生活が分かってきますよ。

こういう場所も世界遺産ですね。スイスと言えば山ばかりと想像するかも知れませんが、これ全部ブドウ畑なのです。「ラヴォー地区の葡萄畑」と言っており、湖の向こう側にうっすらとアルプス山脈が広がっています。こういう自然と人間の営み一つになっている風景を文化的景観といまして、本当に伸びやかな綺麗な景観だな

これも世界遺産、スイスの「レーティッシュ鉄道」です。スイスといえばアルプス山脈が連なり、それが障害になっていますので、この山を越えることが大きな試練でした。この向こうに広がっているのはイタリア。海のあるイタリアを目指して、自然景観を壊さないように、山の起伏に沿ってカーブをたくさん作り、当時流行していた鉄を使わず、あえて手間のかかる石の橋を造って、景観にマッチするような鉄道を造りました。このように車窓からは3D映画を見ているようなパノラマ風景が広がり、アルプス山脈が直ぐ目の前に展開していくのです。なんとダイナミック!!

綺麗なところばかり紹介しましたが、これも世界遺産の一つです。広い牧場に草を食む牛の群

れ。牛が世界遺産ではないですよ(笑)。ここに六基の巨大な鉄塔が立っています。これはスウェーデンの「ヴァールベリの無線通信所」なのです。なんでこのような得体の知れないものが世界遺産になるのでしょうか。このような鉄塔でしたら世界各地にあるようなものだとお思いになるかもしれません。スウェーデンという国は、一九〇〇年代初頭は非常に貧しい時代で、四人に一人が北米に移住してました。四人に一人と言え、親戚を含め、近しい誰かが行っていることになりました。だから、そういった仲間は何とか早くメッセージを送りたい。そのための通信システムが欲しいということで作られたのです。当時の最新技術を駆使して、巨大な発電機を發明し、これを使ってメッセージを送っていたのです。でも通信技術は急速に発展し、すべての機械を集めても今や携帯電話の性能に負けるぐらいだそうですが……。そして、

一九九五年この通信所は閉鎖されます。ここで一番私が感動したことは、最後の放送を聞いていた大勢の人たちから、何とかこの通信所を保存して欲しいと言う声が届いたのです。それでもって、以前ここで働いていた人たちがチームを組んで、私たち観光客にガイドをしながら、守っているのです。これらのシステムは今も現役で、実際に動かして見せてくれます。つまり、人々の熱意がここを世界遺産にしたのです。

次は、自然遺産の例を挙げましょう。私は、常に体を張って旅しています。マレーシアのボルネオ島に、標高四〇九五メートル東南アジアで一番高い「キナバル山」があります。当然、富士山より高いのですが、その富士山にも登ったことがないのにこの山に挑戦したのです。ボルネオ島は赤道直下にあるので、麓は密林のジャングルです。沖縄のように赤や黄色のトロピカルな花が咲き、雨が多く、湿度でムシムシしています。これは

一九九五年この通信所は閉鎖されます。ここで一番私が感動したことは、最後の放送を聞いていた大勢の人たちから、何とかこの通信所を保存して欲しいと言う声が届いたのです。それでもって、以前ここで働いていた人たちがチームを組んで、私たち観光客にガイドをしながら、守っているのです。これらのシステムは今も現役で、実際に動かして見せてくれます。つまり、人々の熱意がここを世界遺産にしたのです。



食虫植物のウツボカズラ。中には濃い酸性の液が入っていて、虫が足を滑らせて陥った途端に浸かり、じわじわ分解されていくのです。この植物はその養分を吸って成長します。

標高四千以上の付近を見て下さい、草や木は全然ありませんね。岩の割れ目から赤い高山植物が見え隠れするくらい。眼下には雲海。岩肌注目してみてください。これは氷河期に氷河が削った痕がそのまま残っています。ここからロープを伝って登ります。この辺りは酸素が希薄ですから、三歩進んで「ハアハア」息をする——その繰り返しでなかなか進まないんです。それに、ふきつさらしの山頂ですから、日本の真冬並みに寒い。突然、雨まで降ってきて、急いで岩陰に隠れました。想像以上にきつくて、何でこんなことをしているんだろうと思いましたが、でも、ここから見た黄金色に輝く朝日は美しく……登った人の中では一番最後に四〇九五坪に登頂したわけです。(拍手)ありがとうございます。

お札にも描かれているこの山はマレーシアのシンボルですが、日本のシンボルと言えば、富士山。でも、自然遺産ではありません。ゴミが多いということはよく知られていますが、裾野には自衛隊の演習場があり、年間大勢の人が登るため登山道以外も踏み荒らされ、生態系が残っていないそうです。均衡のとれたあの形はコニー

デ型と言いますが、日本各地のみならず世界各地にありますから、形自体が珍しいという訳でもありません。以上のような理由から自然遺産になっていないのです。ですから、キナバル山の場合は一日百二十名と限定されていますし、ここに登るには、必ず地元ガイドをつけなければなりません。地元の人たちの雇用にもなりますし、登山者の安全を守り、自然を保護することもできます。ガイドは下りるときにゴミを一つ持って帰るように決められているそうです。日本もそのような事をしながら守ってほしいなあと思います。

これは、私が一番好きな世界遺産です。よく、貴方の一番好きな世界遺産は何と聞かれます。それは、「マチュピチュ」です。ペルーにあるインカ帝国の都市。ここは下から見上げても見上げても、全くこんな所に都市があるなんて分かりません。ですから、謎の空中都市とも呼ばれています。この写真



をよく見る定番の写真です。私は体を張っていますので、向かいの山の頂上にも登ったのです。ここに登ったら全体が見渡せるのではと思ったのです。殆ど垂直に近い岩登り。ここは一日限定四百人しか登れません。山頂から撮るとこんな風になっています。周りを取り囲む峻ついでアンデス山脈。さっきの都市はほんのここだけです。写真なので一方だけしか撮れないのですが、三百六十度をこの山に囲まれ、U字型に深く削られた谷。ものすごい場所にあるのが分かります。

ここに谷底から遺跡に通じる九十九折の道がありますね。一九〇〇年代にできた、私たちがバスで上がることが出来る道路です。インカ時代の道はというと、山を横切るこの細い線がインカ道です。でも、人ひとりがやっと通れる道で、車輪をもたなかったインカ人がどうやってあれだけの石材を運んだのか、文字もないので、未だに謎のままです。それともう一つ。マチュピチュの入口、ここに高級ホテルがあります。どうしても朝日を見たくて、一泊五万円したのですが、思い切って泊まりました。朝六時ぐらいに高台に行くと、朝霧が深く立ち込め、全く何も見えません。寒い中、ジーンと耐えて待っているとアンデス山脈を越えて霧の中からぼーっと太陽光が現れたのです。それと同時にマチュピチュに立ちこめていた朝霧がスーッと消えていきまし

た。そして、最後に残った雲の塊が天に導かれるように上がっていき、あの定番の景色が目前に現れたのです。まるで、アニメ「天空の城ラピュタ」のようでした。あの神秘的な瞬間を思い出すと、今でも鳥肌が立ちます。

最後に、四国でも、八十八カ所を世界遺産にしようと努力がなされているのですが、世界遺産の中で「道」の遺産は二例あります。その一つは、奈良、和歌山、三重にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」。もう一つは、フランスからスペインに続く、キリスト教の道「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」です。約九百キロメートルあり、このようなバックパッカーの人たちが一ヶ月かけて、教会や大聖堂に立ち寄りながら、ひたすら灼熱の道を歩いて最後スペイン西部にある大聖堂に到達します。まさに、八十八カ所によく似ています。世界遺産という、昔の人が作った歴史ばかりと思っていました。が、「道」は現在進行形で、今もここを歩く人が作り続けています。私もその一人になりたいと、スペイン語を勉強中。いつかここを歩くのが夢なのです。

講義の後半は、世界遺産条約ができたきっかけや意義についてお話しします。

表紙作品について

作者

石井 沙知

(平二二卒)

彫刻を始めた頃の目標は気付きや想いをモデルのポーズに託して実直に表すことでした。愛媛大学に入学後は、学びたい事柄が三つに焦点化されました。それは塊として捉えること、全体でみると、意図した形を模索し表すことです。考えが定まってきたらモデルから感じたものを大胆にデフォルメすることにも興味を持ち、制作に取り組みようになりました。卒業後の現在は彫刻とは何か考えながらデフォルメと実直な表現、二つの異なる内容のぶつかり合いから生まれる何かを塊の組み立てを通して探っていきたくて考えています。

今回の作品「contrast」はその試みの一つです。今後も作品制作を通してより深みのある研究が出来ればと思います。これからも考えは淘汰洗練されていくと思えます。

略歴

- 一九八八年 大阪府生まれ
- 二〇〇八年 大阪府立港南造形高等学校卒業
- 第三十七回日彫展初入選
- 二〇一〇年 第四十回日彫展新人賞受賞
- 二〇一一年 愛媛大学教育学部芸術文化課程 造形芸術コース卒業
- 兵庫教育大学大学院文化表現系コース(美術)入学
- 第四十一回日彫展無鑑査出品・会友推挙
- 第四十三回日展第三科初入選(本作品: contrast)

職場だより



子どもたちの歌声

久万高原町

美川小教諭

峯本亜希子

(平一〇卒)



私が愛媛大学を卒業して、早くも十年以上たちます。大学時代、いろいろな授業の中でも、音楽の授業に苦戦したのを覚えています。私自身、音楽は好きな教科で、小さい頃に少しピアノを習っていましたが、音楽の授業でピアノの弾き語りをしないとイケなかったときには、なかなかうまく弾けず、何日も練習室に通って、必死で練習したのを今でも覚えています。そんな私が、美川小学校に来て、初めて音楽主任をすることになりました。

二〇〇八年四月。初めての小規模での勤務に、ドキドキしながら美川小へ向かいました。入学式準備で、初めて美川小の子どもたちに出会ったとき、初めて会った私に、元気よくあいさつをしてくれ、気軽に話しかけてくれる子どもたち。そんな子どもたちに、何より

驚いたのは、子どもたちのきれいな歌声でした。

本格的に音楽について勉強したことはなかった私にとって、不安いっぱいスタートでしたが、子どもたちは音楽の授業を楽しみにしてくれていました。

美川小の子どもたちは歌を歌うのが大好きです。ある音楽の時間に「茶つみ」の学習をしていると、ある子が「美川バージョンを作りたい。」と言い出しました。美川はお茶の産地で、美川小でも毎年、茶つみをし、自分たちで手でもんでお茶を作っています。おうちのお手伝いでも、茶つみをしている子もいます。そのため、子どもたちは、自分たちの茶つみの歌を作って、歌いたかったようです。

「茶つみ」の歌詞を美川バージョンに少しアレンジをして、みんなでその歌を歌いながら、茶つみ・茶もみを行いました。三・四年生が歌っていると、自然と他の学年の子どもたちも歌い出し、青空の下に子どもたちの歌声が響きました。とても楽しそうに歌う子どもたちの笑顔が、とても印象的でした。

遠足のときには、歩いていると

きにも、バスに乗っているときにも、自然と歌声が広がります。高学年の女の子たちを中心に、今まで音楽会で歌ってきた曲などを歌い始めると、他の学年の子どもたちも一緒に歌い始めます。秋の遠足の頃は、ちょうど郡の音楽発表会の練習の真っ最中なので、バスに鍵盤ハーモニカを持ち込んで、合唱の練習をしたりもしていました。今年も、校区の『大川嶺』へ遠足に行きました。校歌にも出てくる大川嶺の頂上で、美



川小に向かって、全校みんなで校歌を歌いました。見晴らしのいい大川嶺の頂上で校歌を歌って、子どもたちはとても心に残ったようでした。

この原稿を書いている今は、郡の音楽発表会に向けて、練習している最中です。美川小学校では毎年、全校児童で合唱に取り組み、

音楽発表会に参加しています。今年も、九月から各学級で歌い始め、十月半ばからは、毎朝全校で練習をしてきました。一年生から六年生までが一緒に歌うため、本格的に音楽について学んだことのない私にとって、どのように歌えばいいのか、どう指導すればいいのか、毎年試行錯誤しています。しかし、一年生から六年生が一緒に歌うことで、六年生が低学年に優しく教えてあげたり、低学年も高学年のきれいな歌声を聞いて真似しようとしたりしながら、少しずつ曲が仕上がってきています。二年前には、合唱をされていた先生の提案で、三年生以上の児童全員でNHK合唱コンクールに参加しました。子どもたちも私自身も、初めての体験でしたが、美川中学校が毎年参加していることもあって、子どもたちは張り切って練習をしていました。結果は銀賞でしたが、歌の大好きな子どもたちにとってもとてもいい経験になりました。

今年も、「歌いつこう 日本の歌」開催事業で、声楽家の方に来ていただき、きれいな歌声を聞かせていただきました。また、発声の仕方や歌い方などについても教えていただき、子どもたちはプロの方の歌声に、とても感動したようでした。

私の美川小での勤務も、早くも

四年目になりました。正直、行事に追われ、校務に追われ、バタバタの毎日を送っています。しかし、子どもたちの明るい歌声を聞いていると、溜まった疲れも吹っ飛び、自然と元気が出てきます。私にとって、子どもたちの歌声は元気の源かもしれません。まだまだ力不足ですが、子どもたちから元気をもらっただけでなく、歌(音楽)の楽しさを子どもたちに伝えていける教師になりたいと思います。そして、子どもたちの明るい歌声が響き渡る学校にしていきたいなと思います。

☎ 791-1205

久万高原町菅生

二一七六四一一



教師のよろこび



大洲市 喜多小教諭 河野 覚志 (平十六卒)

百名中、九十一名。これは何をあらわした数だと思えますか。この数は、昨年度行つた六年生の跳び箱の授業で、本校で一番高い百三センチメートルの跳び箱を跳んだ児童の数です。一番高い跳び箱が跳べなかつた九名の児童も、その次に高い百二十センチメートルの跳び箱を跳ぶことができませんでした。体育に対して得意・不得意がある中で、六年生全ての児童がこのような成果を残せたのは、「集団の力」によるところが大きいのは間違いありません。私が現在勤務している学校は、一学年が、百名を超えて三から四クラスになる大きな学校です。一昨年度、六年生を担当した時、当時の学年部の先生方と、「どうすれば子どもたちがより意欲的に様々なことに取り組むようになるだろう。」と考えました。話し合う中で、「三クラスで競い合えば、



子どもたちもやる気が増すんじゃないか。」と、軽い気持ちで始めたのがクラスマッチです。最初に行つたのは、漢字クラスマッチ。学期のまとめの漢字五十問テストの平均点で競おうということになりました。その漢字テストの結果は、これまでのテストと比べて、学年平均点で大きな伸びが見られました。これは面白いと、その後、水泳やマラソンなど、様々なクラスマッチを行ってきました。そして、昨年度も六年生を受け持つことになり、三学期に行つた最後のクラスマッチが、跳び箱クラスマッチです。

跳び箱でクラスマッチをすると子どもたちに伝えた時、うれしそうな顔をした子どももいました。不安そうな顔をした子どもたちも大勢いました。跳び箱クラスマッチは得点制で行い、もちろん一番高い跳び箱が高得点、小さくなるにつれ得点が低くなるというルールでしたから、跳び箱に苦手意識をもっている児童からすれば、不安になるのも仕方のないことだったかもしれません。

一時間目の跳び箱の授業では、一番高い跳び箱を見て、「絶対跳べん。」と諦めモードの子どももいましたし、一番小さい低学年用の跳び箱が跳べない子どももいました。「さあ、どうやったら跳べるようになるかなあ。」とこれからの指導について心配にもなりましたが、それもいらぬ心配でした。まず、子どもたちが気になるのは隣のクラスの様子。「〇〇君は跳べたらしいよ。」とか、「あいつが跳べたんやったら、ほくも跳べるかもしれない。」といった声が聞こえてきます。そして迎えた二時間目の授業。もちろん授業の中で跳べるようにするための指導はしましたが、それ以前に子どもたちの眼の色が違うのです。「絶対跳ぶんだ」という気持ちをもって取り組む子が多くなり、あつとい

う間にクラスの約半分の子どもが一番高い跳び箱を跳んでしまいました。しかし、いくら強い気持ちをもちても、これまで跳べなかつた子が急に跳べるようになるわけではありません。授業を進めてもなかなか上達しない子どももいました。そしてクラスマッチまで残り数日となった頃、放課後に跳び箱の練習がしたいと子どもたちが言い始めました。放課後特訓のスタートです。教えるのは、一番高い跳び箱をクリアした子どもたち。ここまで来ると、クラスマッチなど関係なく、違うクラスでも跳べたら大きな歓声が沸くようになっていました。一つでも高い跳び箱を跳べるように頑張る子。それを見ながらアドバイスを送る子。友達が跳べたのを見て自分のことのように喜ぶ子。それぞれの子どもたちの姿は、私にとって大きな喜びでした。

そして、クラスマッチ当日。クラスマッチの勝ち負けにこだわれば、跳べなくて〇点になるより、確実に跳べる跳び箱で点数を稼いだ方が賢いのかもしれません。しかし、子ども達の目標は「一番高い跳び箱を跳ぶ」ことになってい

ました。クラスマッチそっちのけで跳べなかつた子を、みんなが応援します。最後には、泣きながらも何度も挑戦する子もいました。その子が一番高い跳び箱を跳べた時、みんなが拍手喝采で喜んだことは言うまでもありません。

跳び箱クラスマッチで見られた、子どもたちが団結し、苦手な子を励ましなが共に伸びていく姿。それは、みんながいるから自分も頑張れる、できる気がするという、学級・学年のまとまりがあつてこそ生まれる思いが作り上げた姿だつたと思います。そして、そんな子どもたちの姿を見とどけられるのは、教師という仕事の大きな魅力だと感じています。今年の六年生はどんな成長を見せてくれるのか、楽しみで仕方ありません。

この原稿を書かせていただきながら、子どもたちの成長を日々実感できる、教師という仕事のやりがいを感じました。一生懸命頑張る子どもたちに恥ずかしくないよう、自分自身も一生懸命努力し続け、成長していける教師でありたいと思います。

☎ 795-0051

大洲市新谷乙

五五六一三

あせらず、ゆつくり、
じつくりと



鬼北町
近永小教諭
濱田 浩子
(平十七卒)

ついこの間まで、愛媛大学に通っていたような気がしますが、気が付くと大学を卒業してから、もう七年が経とうとしています。それと同時に私の教員生活も七年目になりました。

私は大学卒業後、生まれ育った愛媛を離れ、三年間、大阪の小学校で教員として働きました。大阪での三年間は、本当に楽しく充実したものでした。もちろん大変なこともありましたが、しんどいと感じたことは一度もありませんでした。友達にも「定年退職するまで、ずっとこの仕事したい！」とよく話していました。

仕事が楽しくなるにつれ、「いつかは生まれ育った愛媛で働きたい。」という気持ちが強くなりました。

そして、夢が叶って、四年前、愛媛での教員生活がスタートしました。大好きな場所で大好きな仕

事ができることが本当にうれしかったです。さらに、実家から通勤できるという恵まれた環境の中で、仕事に専念することができ、「きつと最高に楽しい一年になる。」と思っていました。

しかし、そう甘くはありませんでした。今振り返ってみると、愛媛での教員生活一年目は、私にとって試練の年だったのかもしれない。特に一学期は、驚きと戸惑いの連続でした。全学年単級という児童数。職員室の机がコの字型に並ぶほどの職員数。小学生時代から大規模校の経験しかない私にとつて、新鮮でもあり、戸惑いでもありました。また、「違う仕事に就いたのか。」と思うほどの仕事内容の違い。自分の中で当たり前だったことが、当たり前ではなかったのです。大阪での経験も無駄なことにはかと思いませんでした。

そして一学期末には、成績処理などの仕事を目の前にして、何もかもが嫌になり、「愛媛に帰ってくるんやなかった。」「大阪に行くんやなかった。」もうやめようか。」など、今思えばバカなことばかり考えていました。そんな時、ある先生に「大阪に行かんか

つたらよかったなんて言ったら、大阪で出会った子どもや先生たちに失礼やないの。」と言われましました。私はその時、はっとしました。目の前にいる子どもたちのことを忘れていたのです。「愛媛に帰って来るんやなかったなんて言ったら、今担任している子どもたちにも失礼や。」そう思うと、もやもやしていた気持ちがすっと消えていったのを今でも覚えています。

そして今、私は、三十七人のかわいい子どもたちと、毎日楽しく過ごしています。一緒に勉強したり、遊んだり、怒ったり、泣いたり、笑ったりして、忙しい日々ですが、本当に充実しています。子どもたちや同僚の先生方に支えられ、私は教員という仕事をますます好きになっています。学校で楽しいことやうれしいことがあるたびに、愛媛での一年目のことを、よく思い出します。そして、「あの時、やめなくてよかったな。」と心から思います。

きつと大阪での三年間も、愛媛での一年目に悩んだことも、すべて意味があり、これからの教員生活につながっていくのだと確信しています。

今、私の夢は、定年退職する

までこの仕事を続けることです。やっぱり私は、学校が好きです。子どもたちといると楽しいです。たくさんの子どもたちと出会い、成長を見守っていくことのできるこの仕事が好きです。定年退職するまで、あと三十一年もあります。そう考えると、私は、まだまだひよこ。きつと、これからもたくさん悩んだり、くじけたりすることもあると思います。でも、どんなときでも、子どもたちと一緒に、前を向いて歩いていきたいです。自分なりに、あせらず、ゆつくり、じつくりと楽しんでいきたいです。

☎ 798-0082

宇和島市長堀

(二一ー一)



教育現場等から同窓会へ
支援要請依頼について

教育現場等で、同窓会へ支援のご要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙をお送り下さい。

教育学部同窓会
インターネット
開設しています！

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

↑
メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

小学校の英語活動に学ぶ



八幡浜市
松柏中教諭
宇都宮正子
(平四卒)

「ズドライトビーチヤ」ある朝、私のクラスの女の子が元気に話しかけてきました。一瞬何のこともだか分からずびっくりして、私はすぐにリアクションを返すことができませんでした。

「ズドライトビーチヤ? あっそうか、昨日英語活動でやったロシア語の『こんにちは』を使ったかったんだ! なかなか難しい言葉だったのによく覚えていたなあ。」私の気持ちは驚きから感激に変わりました。なんだかうれしくなつて、その後、彼女やその友達数人といっしょになり、ロシア語、英語、フランス語、中国語などのあいさつを返し合つて、しばらく遊びました。

二年前、私は小学校勤務を命ぜられ、五年生の学級担任をしました。愛媛大学の付属小学校で教育実習をさせていただいて以来

の小学校経験だったので、最初は不安でいっぱいでした。小学校での経験はゼロに等しく、全く新しい分野に飛び込んだ感じがしていました。自分にとって不慣れで不満足な授業しかできず、新しく導入される英語活動についても、手探り状態で始めたばかりで、日々の授業にも自信が持てずになりました。

そんな時、自分のお気に入りのあいさつの言葉として、覚えてたロシア語を吸収し、早速使つて遊んでいる子どもたちの様子を見て、自分のやっていることが救われた気持ちになりました。小学校での勤務を二年間経験して、私に



とつて「新しい発見」がありました。

まずは、小学生の柔軟な「発想力」に驚きました。外国語のあいさつで楽しそうに遊ぶ子どもたち。数を数える時に、学んだばかりのワン・ツー・スリーで数えようとすると子どもたち。決め事をするとき、英語や韓国語でじゃんけんをするようになった子どもたち。学んだことを自分の生活の中で楽しく生かそうとしている子どもたちの姿に感激しました。

好奇心おう盛な小学生にとつて、英語活動で耳にして新しく出会った言葉は、新鮮な響きを持った魅力的なものであるに違いありません。「どこかで、またこの言葉を使つてみたい。」という欲求が子どもたちの中から自然とわいてくるのではないかと思ひました。このエネルギーは新しく言語を学ぶ時の大事な原動力になると思ひました。

そして、小学生の「吸収力」にも驚きました。ある日、クラスの男の子が「ハロー、ハロー、ハロー、ハワーユー。アイムファイン、アイムファイン、アイホープザツ

トユーアートの。」と何気なく、昼休みに口ずさんでいたのです。

小学校の英語活動では、授業の始めに男の子が歌っていたようなチャンツ(リズムにのせた英語の歌)を用いて、使われる英語表現に慣れ親しませていきます。ジェスチャーを交えながら、繰り返しリズムに合わせて口慣らしをしていくと、ほとんどの児童がチャンツを自然に覚えていきました。

中学校英語では、簡単な表現から積み上げ式に英語を教えていきます。身の回りの単語から少しずつ習得していき、英語では、単語と単語の語順が大切なことを初めに学びます。日本語と英語の文構造上の違いを明確にしながら、文法の知識も基礎的なものから順番に身につけていきます。

しかし、「聞くこと」から入る小学校の英語活動では、音の連結で聞こえてきたかたまりをそのままインプットして、繰り返し発声することを通して、英語表現を吸収していきました。「単語を並べて一つの意味のある文を成立させる。」というところさえはしません。例えば、自分の行きたい所を表現

することが目標とするならば、「アイワントウーゴートウー○○」のかたまりを使うチャンツやゲームをたくさん行います。その過程で、○○の所に場所を入れていけば、「自分が○○へ行きたい。」ということが言えるんだと気づかせ、その表現に慣れ親しませていきました。異なる言語学習の迫り方ですが、双方の良い面を考え、授業改善に生かしたいと思ひました。

中学校では、「読むこと」「書くこと」の学習も加わります。「英語で何かを表現し、伝わった時の喜び」を味わうことがとても大切です。来年度からは、英語科の授業時数が週四時間となり、一時間多くなります。スピーチやスキット作成のような自己表現活動ができる時間の確保につながると思ひます。小学校の英語活動で経験したことを生かして、子どもが授業で生き生きと英語が使えるような授業を目指していきたいと思ひます。

☎ 796-8041 八幡浜市合田

私の選んだ道



愛媛銀行
宇和島支店
船田祐美子
(平二三卒)

私は現在、愛媛銀行宇和島支店に勤務しています。今は預金係として、日々、上司や先輩に銀行業務を教わりながら仕事をしています。社会人になって約半年が経ちますが、愛媛銀行に入行して、地元で働くことに誇りを持つ一方で責任の大きさも感じています。入行して間もない頃は、お客様の大切なお金を扱う仕事の重大さに押しつぶされそうになりました。また、自分の言動が会社のイメージを左右するという、社会人としての責任の重さを身をもって感じています。

路を決めました。地元の愛媛から出る気持ちはありませんでしたし、母の出身大学ということも私の中ではとても大きな決め手だったと思います。

在学中は、今の総合人間形成課程生活環境コースの前身である生活健康課程生活環境コースに在籍し、地学研究室で鉛同位体比分析法を研究しました。地学は苦手だったのですが研究内容と先生方の人柄に惹かれて選びました。中でも指導教官である佐野先生には卒論を始め、将来の進路についていろいろと貴重なアドバイスを賜りました。

大学三回生の十月から始めた就職活動では、教職の道に進みたいという思いはあったものの、まだ卒業後の進路については迷いがありました。的を絞らず、がむしゃらに行動するのめどうかと思っただけですが、自分の可能性を試したいという思いもあり、いろいろなジャンルの企業にエントリーしました。「自分のやりたいことをしなさい」という母の言葉も支えになっていました。

大学四回生の六月に母校の中学

校に教育実習に行きました。教育

実習を通して一番悩んだことは、生徒との関わり方です。思春期真っ只中の彼らと向き合うことが一番苦労しました。私に気を遣ってくれている生徒や反対に私を避けている生徒、全く関心を示さない生徒など……。いろいろな生徒に接するたびに、どうすればうまく自分の気持ちを伝えることができるのか、実習中は日々奮闘の連続でした。自分が不安に思っていると生徒たちにもその不安な気持ちが伝わるような気がしました。そんな私に、指導教官の先生を始め、たくさん先生方から励ましのお言葉やアドバイスを賜りましたが、三週間という短い実習期間でしたが、人と向き合うときは自分から進んで心を開かなければならないというヒューマンリレーションズの大切さを学ぶことができました。

教育実習にいったものの、幼いころから笑顔が素敵で憧れていた「銀行の窓口のお姉さん」の夢が次第に大きくなっていきました。教職の道にも興味はあったのですが、最終的には、銀行への就職を

決めました。

「後悔先に立たず……」大学時代、自分の将来を考えると、いつも胸にあっただのはこの言葉です。この言葉を胸に、自分の為になることや自分の成長に繋がることをしようと思ひ、大学生活では様々なことにチャレンジしました。どちらかというと引つ込み思案で、限られた人間関係に居心地の良さを感じるタイプだったので、「もつと他者と積極的に関われる自分になりたい」と考えて、人材派遣会社に登録しサービス業をはじめとする様々な職場を経験しました。

しかし、「大学生のとき、あれもこれもしなかったなあ……」と今になって思います。まだまだ経験しなかったことがたくさんあり後悔しています。

大学での四年間は他人と向き合いながら自分自身ともじっくりと向き合うことのできる貴重な時代と思います。先輩の皆さんには、やり残したことがないくらい思いやり自分からいろいろなことに挑戦してもらいたいと願っています。

今では、自分を育んでくれたこの愛媛の地で、誇りをもって働けることに感謝しています。愛媛大学以外の大学に進学していたら「また何か違ったのかな」と思うことはあります。でも、愛媛大学でたくさん貴重な経験が積めたことを幸せに思っています。

だからこそ、自分が今できることに一生懸命取り組もうと決意しています。検定試験には万全の態勢で臨み、できるだけ多くの資格を取って、一日でも早く先輩に追いつけるよう頑張っていきたいと思います。お客様から「ありがとう」の言葉を一回でも多くいただけるよう、笑顔で一人ひとりのお客様に誠実に接していきたいです。職場の上司や先輩、そしてお客様から信頼され、可愛がってもらえるような銀行員を目指して日々精進していく決意です。



ルイジアナ大学モンロー校のシバクマラン博士が 教育学部を訪問

学内最近のニュース

平成23年7月4日(月)の午前、アメリカ合衆国ルイジアナ州にあるルイジアナ大学モンロー校のシバクマラン博士が、教育学部を訪問し、寿学部長と面談をされました。話題は主として、両校の交流協定の締結についてでした。

愛媛大学教育学部の担当者である富田英司先生がリードされ、協定の具体的な内容について、深く議論を交わしました。学生交流については「教育文化視察」と「交換留学」の2種類を設け、2週間程度の短期型の相互訪問から1年までの留学まで対応できるよう、また、教育学部に新たに設けられた愛媛大学短期交流学生の制度を積極的に利用できるよう考慮されています。また、教育学部らしい活動として、海外での教育実習経験を積めるよう議論を進めてゆくことになっています。午後からは、教育学部学生がシバクマラン博士と交流する機会を持ちました。

手続きがうまく運べば、平成24年度から交流が開始される予定で、教育学部で久しく求められていた欧米圏の交流協定校が誕生することになります。



訪問風景 1



訪問風景 2

ルイジアナ大学モンロー校 (ULM) 訪問

平成23年9月に、富田英司先生と白松賢先生が、アメリカ合衆国ルイジアナ大学モンロー校 (ULM) を訪問しました。今回の訪問では、ULMのニック・ブルーノ学長やパニ副学長をはじめとした大学首脳陣との面会、ULMの教育人間発達学部のリモイン学部長と各学科長との面会、教育人間発達学部の中でも特に教員養成に携わる課程教授学科の教授陣の前での愛媛大学教育学部の紹介、教育人間発達学部のシバクマラン副学部長とキム博士との交流プログラムの具体的な打合せ、教育人間発達学部でおこなわれている授業の視察、ULM周辺学校の視察、モンロー市の教育長ハリス博士との面会、などをおこないました。今回の訪問で、ULMがモンロー市とその周辺地域の教員養成とプロフェッショナル・ディベロップメントのセンターとして機能し、優秀な教員を輩出して高い信頼を得ていること、本学部の学生が安全かつ快適に暮らせる環境を持っていること、教育人間発達学部が I-space をはじめとした留学生のための施設整備に力を入れていることなどが明らかになりました。



ブルーノ学長と握手する白松先生。
記念にULMグッズを頂きました



学長邸宅にて。左からリモイン学部長、ブルーノ学長、
富田先生、白松先生、シバクマラン先生、キム先生

教育学部卒業生 木村志穂さんが「かがやき松山大賞」を受賞

平成23年6月24日（金）、松山市役所において、スポーツや芸術の分野で活躍する個人や団体をたたえる「かがやき松山大賞」の贈呈式が行われ、教育学部卒業生の木村志穂さん（平成17年卒業）が受賞しました。

木村さんは、愛媛大学テコンドー部でキャプテンを務め、全日本テコンドー選手権大会で組手部門5回、型部門3回の優勝経験が有り、世界テコンドー選手権大会の型部門での銀、銅メダルも有する「日本女子テコンドー界のパイオニア」の一人です。今回の受賞は、今年2月の全日本テコンドー選手権大会優勝が評価されたもので、4度目となります。

木村さんは、現在東京在住で東京府中道場所属選手として男子選手を練習相手に日々研鑽しながら、副師範としても女子選手の育成に当たっておられます。次なる目標は2年後の世界選手権大会での悲願の組手世界一です。故郷・松山の為、そして、母校・愛媛大学と名門・テコンドー部の後輩達の為、木村さんの大いなる挑戦は続きます。



授賞式（前列左：木村志穂さん、右：野志松山市長
後列左：松山市テコンドー協会副会長、右：同会長）

第2回三輪田米山展を開催中

愛媛大学ミュージアムでは、定例事業として、図書館が所蔵する三輪田米山（みわだべいざん）の書や日記などの貴重資料を展示し、平成23年9月7日（水）から平成24年3月31日（土）までの間、「三輪田米山展」を開催します。

この三輪田米山展は、平成22年度から平成25年度までの毎年9月から3月まで、4年間で計4回実施します。第2回となる今回は、「米山仮名の美」と銘打ち、かの良寛に劣らない、美しい仮名作品を数多く展示していますので、是非、ご覧下さい。

また、図書館2階西エリアにおいても米山コーナーを常設し、米山日記のレプリカや関連図書を展示・閲覧出来るようになっていますので、併せてご覧下さい。

開催場所

愛媛大学ミュージアム（松山市文京町3番）

開催期間

平成23年9月7日（水）～平成24年3月31日（土）

入館料

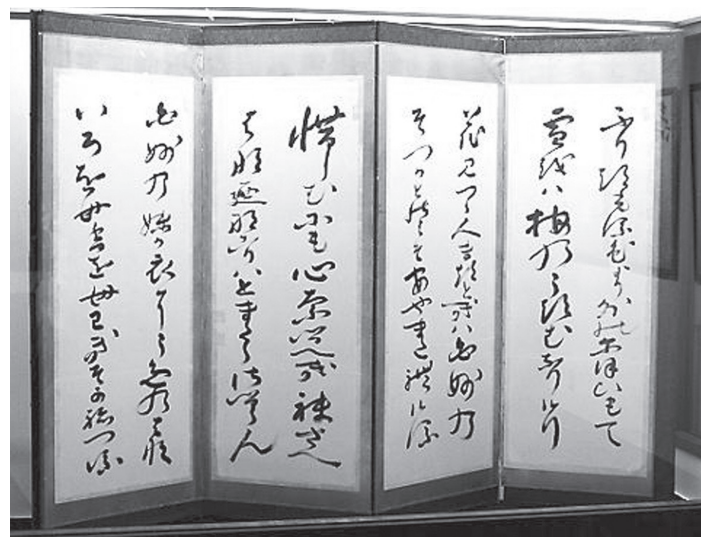
無 料

開館時間

午前10時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日

- (1) 火曜日
- (2) 年末年始（12月28日～1月4日）
メンテナンス休館（2月1日～15日）など



屏 風

グアテマラ通信 (2010/12/1)

メールアドレス vividugiyama@live.jp

JICA シニア国際ボランティア：杉山 允宏

新住所 Dr. Masahiro SUGIYAMA

#807 Edificio Santorini las Américas 1ª Avenida 6-24 Zona 14 Guatemala 01014 GUATEMALA C.A.

愛媛大学を定年退職し8ヶ月が経過しました。4月からあつと言う間に6ヶ月の訓練が終わり、グアテマラに着いて1ヶ月のスペイン語研修も終え、やっと仕事場のあるグアテマラシティに来ました。市内のホテルで2週間伝達事項、日本人学校運動会や歓迎会などがあり、主にアパート探しを行い、JICA推奨の住居が決まり、1週間が経過したところです。私はVoluntario Especialista Judoとしてボランティア活動を行う [Centro Deportivo Parque la Democracia] Ministerio de Cultura y Deportesで初日から、様子を伺いながら指導しています。アパートメントが決まるまでの2週間は柔道着の入っている荷物が開けられず、子供達におまへは柔道をしないのかと言われながら過ごしましたが、今はバシッと決めて私のスペイン語学習と同様Poco a poco ゆっくりとゆっくりと教えています。タクシーの呼び出しも出来ます。

Ciudad de Guatemalaグアテマラ市は1775年に現在のAntigua市から標高1,500mの高原地帯に首都として移り、100万人のカピタルまたはグアテと呼ばれています。1944年10月20日の革命記念日以来、一言では言い表せませんが、政治・経済の中心である首都の機能と発展は著しいけれども、貧困や犯罪などの社会問題は極めて不安定で、特に最近犯罪率が高くなっており、昨日関係者の被害連絡が入り注意しています。通貨単位はケツアレスQsで1ドルが8Qsですので1Qsは約10円と考えています。市内のバス賃は普通1Qsです。が犯罪が多いので市内バスには乗車しないように言われています。長距離バスは利用出来そうです。市内の交通機関は安全のため指定された黄色のアマリージョタクシーのみです。1区間25Qsです。私の職場は遠いので専属タクシーで片道50Qsで予約していますので、毎日100Qsかかり、生活費の1/3位かかるので大変です。普通の人の1ヶ月の給料は2,000~2,500Qsです。ビール350ccは10Qsです。ガソリンは1ガロン(3.6リットル)が27Qs。ジュースは6Qs。

柔道指導：10月~12月20日まで学校は休みで、所属している運動公園ではスポーツ・文化プログラムが開講されており、柔道クラスは5つあります。その内、2つは柔道クラブのような感じでまだ様子が分かりません。とにかく、3歳~30歳までが短パンとTシャツでするので、日本では発育発達とか、技能水準とか、経験年数とか必ず考慮しますが、ごっちゃまぜでやっているの毎日ハラハラしながら見ているのですが。小さな子に関節技を教えたりするものですから、しびれを切らして忠告しました。Poco a pocoで柔道はどういう運動・スポーツかを教えていく必要があります。柔道クラブの青少年達は見込みがある子供もいるので今からじっくり柔道の神髄を伝達します。今は、礼法と受身を強調する毎日です。



アパートから市内が一望出来ます。Oberiscoにある中央のGallo雄鳥のクリスマスツリーが18時に点灯します。運動公園事務所後部にPacaya火山



文芸



俳句

俳句甲子園



奥村 幸二
(昭五六卒)

松山俳句甲子園をご存じだろうか。あの東京マラソンを抑え、第五回日本イベント大賞を受賞し、私が俳句を始めるきっかけとなったイベントである。

正直言って俳句には興味なかったというより分からなかった。しかし俳句甲子園に出会って、高校生がつくりだす句の新鮮さ、発想に興味をもった。そして第四回俳句甲子園で最優秀賞になった神野紗希さんの「カンバスの余白八月十五日」に出会い、その深さに感動した。同じく「起立礼着席青葉風過ぎた」の句を読んだ瞬間に、自分が教壇に立つ映像、窓の外

の緑の光景、そして風を感じた。衝撃であった。その時から自分も俳句をやってみようと思った。

そして師である夏井いつきに出会ったことが何より大きかった。夏井いつき率いる俳句集団「いつき組」のポリシーは「楽しくなければ俳句じゃない」である。この言葉はしばしば誤解を招くが「楽しい」の質を上げること夏井いつきの本意がある。俳句の指導力はもちろんのこと、師の人間的魅力には驚嘆するものがある。その師が使命としているのが「百年俳句計画」である。俳句は古いよ

うで実はまだ歴史が浅い。俳句の未来を考えたとき、今何をやるべきか、それを実践しようというのが「百年俳句計画」である。俳句甲子園もその思いから生まれた。

——*——*

睡蓮の閉ちる数式書いてみよ

9号車5A上段夏オリオン

朝顔の光のやうに弾くカノン

秋澄むや句点を打つに値ふ空

問題は桔梗のやうな妻のこと

だしぬけに流るる星の覚悟かな

水の澄むやうな別れをたつた今
体育の日のアテネまで続く空
炭火吹き再び太宰読む駅舎
空色の夢を見たがる湯婆かな
碑へ一礼したる男の息白し

罪状は冬三日月を見てたこと

討ち入りの日やユニクロの旅靴

ほんたうの福は入らぬ福袋

削除キーそつと叩いて卒業す

——*——*

俳句は十七音で構成される宇宙である。その宇宙が読み手の感性や経験によって、小さなものになったり、大きなものになったりする。そこが俳句の面白いところである。まだまだ句をつくる力はないが、よい句に出会えると幸せになれる。

来年の松山俳句甲子園は八月十八・十九日に行われる予定である。一日目は真夏の街道を舞台に激戦が繰り広げられる。全国から集まった高校生たちが、俳句というフィールドで本気で戦う姿是非見てやってほしいと思う。

799-1522

今治市核井

四一二一六

短歌

今日の空

附属特別支援学校教諭

井上真佐子

(昭六二卒 特音)

飛び込むならここへ飛び込め
といふやうに雲の切れ間に青
空がある

慌ただしい毎日の中で、意識して空を見上げることは少ない。けれど、何かのきっかけでふと空を見上げたとき、その美しさに立ち止まってしまふことがある。

言葉多く浴びし一日は夕映えの無言にしばし浸されてるよ
これは、もう二〇年以上前、新採の頃に作った歌だ。どういう一日であったのかは覚えていないが、放課後、生徒達が下校したあとで空を見ながら立ち尽くしている、新米の自分の姿が思い浮かぶ。何に告ぐる別れぞ今日の夕映えは噴き上ぐるごと朱を輝かす

「アルプスの少女ハイジ」の中で、「夕焼けはどうしてこんなに美しいの」というハイジの問いに、おじいさんがこう答える。
「夕焼けは、お日様が山に向かってするさよならのあいさつなんだよ。だからこんなに美しいのさ」

別れを告げるときが一番美しい、というその言葉を、夕焼けに出会うたびに思い出す。

夕映えが夜空に変はるひとところ水のやうにもあをすきとほる

空を掃く箒あやつる手は見えず掃き目うつしく雲はととのふ

身に帯びる何一つ無き冬の樹の枝の向かふの空の明るさ

季節により、天候により、空はその表情をさまざまに変えるが、見上げる私たちのその時の状況や心情によっても、そこに見えるものはさまざまであるように思う。

夏空に鳩らいつせいに飛び立ちて安住といふ語のふと遠しあるときは空の深さを測るべくクレーンは長き腕伸ばしゆく

とはいえ、青空を見ればそれだけで元気になり、夕焼けに出会って穏やかな気持ちを取り戻すのも、また、たしかなことだ。

私たちの小さな思惑を超えたところで、空はただ、静かに広がっている。

雲ひとつなき青空を見しことを賜物として今日は眠らな

790-0813

松山市萱町

五一〇一八

川 柳

おーいお茶



森貞 和雄
(昭二五青師)

それはそれこれはこれじゃと譲らない
言う勇氣じつと我慢をする勇氣
そこまでは言うでないぞと目で合



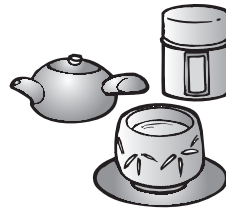
図

どの子にも輝く物がひとつある
子育ての責任持たぬ親が増え
あの顔でまことしやかな嘘をつく
一杯の酒でうっかり出た本音
ヨイショされうっかり乗った口車
若竹のように育てよ日本の子
親の背が子の生き様を映してる
国と国信じることに在る平和
そんなこと嘘よと鏡拭いてみる
無言でもその目が物を言っている

一度でも言ってみたいよ「おーいお茶」

☎ 791-0245
松山市南梅本町

八八七一一



水 墨 画

集中の心地良さ

西島 節子
(昭三四卒)

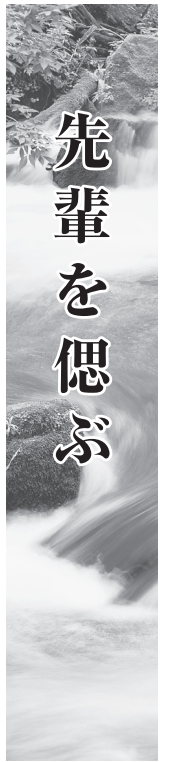
定年退職を機に習い始めた俳句、かな習字、水墨画。どれもやればやるほど奥深く、手習いの域を出ない。
水墨画は白黒の世界なのに千差万別の色がある。その墨の色を出



すのが大変に難しい。また気持ちを込めて自分なりの絵にする筆使いも。これで可とする絵にはならないが、描いている間、集中できるその心地良さは、好きである。
手足が動き、より永く元気で頑張りたいと思っている。

☎ 791-8011
松山市吉藤

二一二一三二



先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く(四)

「巻頭言」集 『愛媛教育』誌より

【生活の更新】

新生のよるこび、かの惨虐類なき大正十二年を送つて復興の力に燃ゆる大正十三年を迎へる時、心からなる新生のよるこびを感じ、新しき力の湧き出づるのを禁じ得ない。

吾々の生活は期せずして革新の好機に際会してゐる。旧い因襲の敝衣(へい)を焼却して、生まれたま、の姿で新しき生活に入らねばならない時機に際会した。日々新聞紙は都人士が浮華軽佻虚飾(ふかけいちちやうきょく)の生活から質実、醇厚の生活に急転しつゝ、あることを報じてゐるではないか。

凡そ人生に於て倦怠気分ほど恐ろしいものはない。近時の爛熟し飽満した文化は、国民の大部分にこの恐るべき倦怠気分を与へた。而してこの咀ふべき倦怠気分は異常なる刺激によらなければ到底一掃し得ないほど、強く深く濃いものであつた。

突如として起つた大震災、それがこの倦怠気分を一掃して国民を覚醒せしめる一大刺激となつたことは、思へば大きな幸福であつた。

大正十三年の年頭に立つて、希望に輝く前途を望像して、衷心欣喜に堪へないと同時に、今までにない心の緊張を覚える。摯実な誠実な純一な心で、新しき日々を送つてゆきたいものである。(大正十三年一月号) ※大正十二年・西曆一九二三年

【明るく朗かに】

余りに、一つ一つの言語に拘泥しすぎる。もつと素直な心持で、一つの意見、一つの議論の醸し出す雰囲気の中から、其の人の眞情を汲み取る様になれないものか——研究発表会や批評会を終えて帰る時、いつもかう考えられる。今の我々の社会は凡ての事をあまりに表面的に、またあまりに理智的に解釈しようとする傾向が濃厚すぎはしないだろうか。それこそ口角泡を飛ばして議論をしてゐるのを仔細に聞いてみると、同じ意見を異なる言語で述べてゐるに過ぎぬと思はれることが屢々(しばしば)ある。只いひ表し方が同一でないといふ単なる理由のために、目に角たて、言ひ争つてゐるとしか思はれぬ場合が少からずある。

【バーカスト女史を迎ふ】

ダルトン実験室案の創始者、ミス・バーカスト女史は本月上旬来朝、東都で第一回の講演をされて多数の聴衆に大なる感激を与えられた。爾来(じらい)東北に北陸に巡回公演中であるが、我が松山に同女史を迎へて、親しく同案の精神について教を受け得る日も旬日の後に迫つてきた。

従来の方法による教育に行詰りを感じ、何等か新しき方法によりて新時代に適應する教育を行はんとする悩みは、真面目に教育の事を考ふる人士なら誰しも有する所のものである。かくて幾多の教育方法が創案され実施されたが、このダルトン実験室案こそはその中の最も出色のものであり、又最も大胆なる改造教育の歩を踏み出したものといふべきであらう。児童の自由を尊重する教育、児童の個性を尊重する教育、徒(いたすら)にその声のみ高くしてその実の之

に伴はざる憾ある我国現時の教育界にかゝる大胆なる改造教育の創始者を迎へ得たる事は、大きな歓喜である。きく所によれば松山における同女史の講演聴講の申込はすでに一千名を超過したといふ。その日会場に集つたこれらの多数の人々が熱情と力との籠つた同女史の講演をきいて、いかばかり心を躍らすことであらうか。

諺に「感心上手の行い下手」というのがある。その日集つた諸君が単に一時の感激と興奮とに終らず、沈思潜心、同女史の精神……敢て方法といはずに精神といふ……を日常の教育に生かして行かれんことこそ切望に堪へない。(平成十三年五月)

【大震災一周年】

大正十二年九月一日、この日突如として起つた大震災と、それから三昼夜に亘つて炎々天を焦がした劫火(ごうか)とによつて、十萬の生霊と、百億の富と、長い年月を費やして漸(ようや)く築き上げた文化とをまた、くうちに失つてしまつた。日々には伝はる報道が如何ばかり国民を愕然たらしめ疎然(しょうぜん)たらしめたことか。あれから満一年の日が流れ去つた。其の間に何が復興されたか。すすきりしたバラック街の軒並に輝く光に、夏の夜の銀座のそぞろ歩きは、震災前よりも却つて快くなつたといふ。それだけか。浅草に群る興業物は前よりも一層の絢爛(けんらん)とさで人を惹きつけてゐるといふ。それだけか。日本橋区あたりは空地もない位に家が建つたといふ。それだけか。

あの時、国民の心の底深く植ゑ

つけられた芽はいつたかどうかのたろう。国難来と叫ばれ、国民試験の秋と呼ばれたあの声はどこにどんな反響を及ぼしてゐるのだろうか。浮華軽佻の風が除かれたか。剛健質実の美風が起つたか。「熱し易く、冷め易い国民」我國民性の一欠陥として今まで屢々聞かされた言葉はこれだ。だが光輝ある二千五百年の歴史を作つてきた我が國民だ。もつと力強い粘り強いあるものを持つてゐる筈ではないか。

祝・叙勲

(平成二十三年十一月三日)

☆瑞宝小綬章

教育功労 八木 壮平 殿
今治市柳田甲三七三—一
昭三十九年卒

☆瑞宝双光章

教育功労 高野 莞爾 殿
宇和島市三間町中野中一八四
昭三十九年卒

教育功労

長野シゲミ 殿
今治市神宮田一三八
昭三十九年卒



明治・大正の頃の教育事情(四)



上甲 修 (昭二九卒)

小学校の授業料と就学状況

明治二十五年、愛媛県では尋常小学校の授業料を一カ月三銭から二十銭を基準として市町村長が確定するよう指示した。しかし貧困児童に対しては三銭以下でもよく、また授業料免除をも認めていた。

松山市の旧中島町は、明治二十二年までは十七の村からなっていた。昭和四十三年に刊行された『中島町誌』には、明治十九年(一八七六年)大浦村ほか四カ村の「学事取調」の資料が載っている。それによると就学見込人員と授業料等を納め得る者の状況は第一表のようである。明治二十年、神和地区簡易小学校の就学状況

第1表 東中島諸村学事取調 (明治19年11月)

村名	学齢人員		就学見込人員	10銭以上の授業料を納め得る者	5銭以上の授業料を納め得る者	授業料納入不能の者
	男	女		人	人	
大浦村	236	188	113	38	53	22
小浜村	188	100	69	20	29	20
長師村	100	74	42	6	23	13
宮野村	74	212	37	7	15	15
神浦村	212		79	36	33	10

は第二表の通り。津和地はともかく他の学校の就学率は、わずか二十パーセント台の状態である。ちなみに当時の県内就学率は、四四・四パーセント(男五九・六二%・女二九・二七%)であり、明治五年の学制の理想とした「呂二不学ノ戸ナク家二不学ノ人ナカラシメシメ事ヲ期ス」には、まだまだ遠い状態であった。

第2表 神和地区簡易小学校の就学状況 (明治20年)

校名	就学生			不就学生			学齢総数	就学率
	男	女	計	男	女	計		
津和地	64	18	82	38	80	118	200	41.0%
元怒和	40	5	45	62	109	171	216	20.8%
上怒和	32	0	32	46	53	99	131	24.4%
二神	35	7	42	38	80	118	160	26.2%

しかし、明治三十三年小学校令の改正により授業料徴収が廃止された結果、就学率が著しく向上し、明治四十年、西中島村では九十四名の学齢児童全員が入学している。

同年、県内全般の就学率は、男九八・九八%・女九六・六六%に達しており、国民皆学の理想にほぼ近づいたのである。

明治の小学校令と就学率等

○ 明治四年に文部省が創設され、翌明治五年八月に新しい『学制』が發布された。かつて

の身分別の学校を廃し、身分にかかわらず学校をつくる、という明治政府の国民皆学の表れであった。

○ 明治五年に学制が發布されたが、政府の統制と指導のもとに小学校教育が始まるまでは、読み書きソロバンが教育の主流であった。

○ 明治六年、小学生の数は、男子八十八万人、女子三十万人で就学率は男子四十パーセント、女子十五パーセントであった。

○ 明治十九年、最初に出された小学校令では一学級の児童数を尋常小学校で八十人、高等小学校で六十人以下と規定。町村役場などを利用した小学校簡易科の設置も認めた。

○ 最低三カ年とされていた尋常小学校の修業年限を四年に統一したのは、明治十九年の小学校令から。さらに条文で、この期間を初めて義務教育年限とした。

○ 明治二十三年に公布された小学校令に初めてその目的が明記

された。「小学校ハ児童身体ノ発達ニ留意シテ道德教育及ビ国民教育ノ基礎並ビニ其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス」

○ 小学校の授業料は、地方財政が窮乏化するにつれ高くなつたが、しかし明治二十九年から国庫補助が出るようになり授業料も安定、就学率は明治二十八年の六十一パーセントから明治三十八年には九十六パーセントになった。

○ 義務教育費(授業料)は、明治三十三年(一九〇〇年)から無償となる。

○ 高等小学校は、二年制・三年制・四年制があつたが明治三十三年の改訂小学校令で、二年制が尋常小学校に併置を奨励されるようになって以後、尋常高等小学校が急増するようになる。

なお戦時中の昭和十六年から数年間は、尋常高等小学校が国民学校という名称になった。

(完)

卒業して 五十八年あれこれ



小野植元幸
(昭二九卒)

卒業して半世紀。学園生活が走馬灯のように蘇り懐かしく思い出している。私の入学の頃は子供が多く教員不足。高校卒の代用教員で賄う時代で大量の教員不足、卒業すると就職できた。会社・証券会社・銀行等に就職する人が多く、教員は「でもしか先生」と揶揄されるほど希望が少なかったように思う。でも入学試験は、合格しなかった人もいた。

私の入学の頃は、戦後まもなくのため、施設・設備は悪く、校舎は「城北練兵場跡」のため、木造二階が並びわずかに改修していた。

新制大学設立当初のため、学生は愛媛師範男子部、女子部、青年師範から編入した人もいた。当時は教育学部、法文学部、文学部のみであった。今の農学部は、県立農大、現工学部は「新居浜工専」といい新居浜にあった。

したものである。テストは、講義の中から出題される事が多く、欠課した者は、ノートを借りて対応していたように思う。

当時、洋画の大家藤谷庸夫先生、憲法の大野盛直、文学の蒲池文雄、体育の中村章(大洲市出身)、藤原元時(越智郡出身)、倫理学の小池平八郎、家庭の越智信子、書の大家浅海蘇山、「日本画の南放と呼ばれた石井南放、地理学の村上節太郎(旧五十崎町平岡、旧庄屋出身)先生等、すばらしい先生方ばかりで、愛媛教育に貢献されていた。

特に、村上節太郎先生は、同郷で親しみを感じた。このほど内子分庁ロビーにて、村上節太郎先生のモノクロ写真展「旧大洲町、旧五十崎町、旧内子町」の昭和二十年頃の町角の風景のため来庁された人々は「珍しい。」と見ておられた。戦時中の浜、島の人々、農家の人々の生活等が沢山残されており学生の頃の講義を懐かしく思い出した。禿頭で、熱弁をふるい汗をふきふき、踏査した写真・統計・図表等を示して語られ楽しかった。

土曜・日曜日・祝日等は常に、カメラ片手に、リュックサックを背に、海に山、県下すみずみに、生活の姿、伝統行事、風習の撮影にかけまわり、後世のために残された功績に感動、敬服するものである。その上にみかんの研究「村上の柑橘研究」は第一人者といわれた。地方に尽力され「みかん愛媛」の礎を築かれたともいえる。

平成二年一月十五日発行「内山

地歴談話会十五年の「あみ会」の会報として、内子の産業和紙、櫛と蠟、養蚕、交通、地質、仏閣、街道、自然の研究など多岐に渡り会員の調査、踏査に指導助言されている。

「旧五十崎町誌の篇算委員会顧問に任命されたが、一度も出席せず発行され、私は、天神村、御祓村の古い景観の写真等載せてもらえず残念。愛媛県史四十巻編纂中で忙しかったせいもあった。」と談話誌に述べられている。先生の資料は多数保管されているという。

「海と島に生きる」愛媛県歴史博物館発行(平成十八年十二月)昭和十年、十二年、十三年、戦後二十一年頃の写真約百八十枚「忽那諸島。芸予諸島の姿。港町のにぎわい。海辺の情景。なりわいの海。さまざまの船。はたらく女性。海の子どもたち。海と祭り」貴重な遺産である。

著書「愛媛県史四卷(四十卷)「私たちの郷土」「愛媛県新誌」「柑橘の研究」「論文」等。他多数。

先生の略歴

大洲中学校卒業。東京高等師範(現東京教育大)地理、歴史専攻。東京文理科大学理学部で人文地理専攻し、昭和十年三月卒業。

愛媛師範男子部。愛大法文学部地理学担当。退職後、愛媛大教養部、聖カタリナ短大で十五年間非常勤講師。

☎ 791-3351 喜多郡内子町五百木 一五四

放送大学四月入学 生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十四年四月入学を募集中です。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

- 放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。
- 放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



放送大学

知識が人生を変えていく
一科目からでも学べます

平成24年度4月入学生募集中!
(平成24年2月29日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)
TEL 089-923-8544



- 放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が可能です。
 - 放送大学の講習を受講して、教員免許更新が可能です。
- 資料を無料でさし上げておきます。お気軽に、愛媛学習センターにご請求下さい。



岡山新支部発足!!

愛媛大学教育学部同窓会、第一回岡山県支部総会が、平成二十三年八月二十八日(日)、JR岡山駅前「サン・ビーチ OKAYAMA」にて、正午より開催されました。猛暑の中、ご多忙の中、ご来賓として、同窓会顧問・愛媛大学教育学部長 壽卓三様、同顧問・愛媛大学教育学部名誉教授 奥定一孝様が駆けつけてくださいました。「教育学部」の存在の意義が問われている現状や、盛大な発展を祈念するという、お心の籠もった祝辞をいただきました。ありがとうございました。

出席者の同窓生は二十五名。第一回目のささやかな船出でしたが、昭和三十三年卒の方が最高齢で、ご夫婦、親子(平成十年卒)でのご参加もあり、今後の同窓会支部の運営・活動のあり方の指針を与えられた、意義ある会となりました。

開催のきっかけは、「同窓会報 第一一〇号(平成二十三年二月一日発行)」の最終面に紹介されている、「愛媛大学文化講演会(平成二十二年十一月二十三日)」を開催するにあたって、私が大学や

同窓会事務局と係わる過程で、「岡山県支部」立ち上げを、同窓会事務局から要請をいただいたことでした。

初めての支部総会ということ、という会になるか少々心配をしておりましたが、富田一廣さんからスタッフの名進行のもと、ご出席の皆さんに自己紹介を兼ねて、思い出や近況を語っていただいたのが良かったようです。皆さん思いの丈を述べられたように思います。道後温泉でのこと、ポーター部で梅津寺の海岸で飲み明かし、講義にもろくろく出席しなかったこと、松山のお城への階段を走って駆け上がった部活動、持田の教養時代のこと等等、今、「坂の上の雲」で脚光を浴びている松山の懐かしい地名や場所がふんだんに出て来て、皆さんの顔がだんだん愛大の、松山の顔になって参りました。会は盛り上がり、これからというとき、予定の三時間はあつという間



「もっと早く開くべきだった。」
「楽しい会でした。」次回も是非。などなどありがたい言葉もいただき、皆さん喜んでくださいました。今までに、倉敷、笠岡地区などで同窓生の会が開かれているんですよ。後ほどいくつか紹介しますが、欠席された方々の通信欄を読んでみましても、会の時期、場所などにもっと配慮すればまだまだ参加者の輪は広がるかな、と思います。

次回も今回の発起人です。会を持とうと思います。今度はスタッフでよく話し合っ、開催時期、場所などを検討して早めにご連絡いたします。もちろんご返事の通信欄のご意見なども参考にして会の出席者が固定化しないように努力していきます。

次は、二年後に開催を予定しています。また、名称も「県人会」ではなく、「岡山県支部」に統一します。それ



「教育出身でかつては懇親会を開いていました。」笠岡にいた頃始まった。校長十人程の愛大が三十九人になりましたが現在「……」が「会」が発展して松山で開けるようになったら良いですね。」

「体調がすぐれず夏場・冬期等の外出は予定が立ちません。」「すばらしい企画です。新しい縁が生まれるよう御盛会を祈っています。」

「小学校の校長をしています。光が見えてきました。」



岡山県支部長 岡田 潤 (昭和三十八年卒)

「東北大震災」という未曾有の国難に遭遇し、一方では、「なでしこジャパンの快挙」など、「風化」を許さぬ事件の多かった年に、こうして「絆」を深める会を持つことができたことに、またそれに係わってくださった多くの関係各位に、深く感謝申し上げ、言葉足らずで、不十分な内容の報告になりましたが、これで筆を擱きます。

平成二十三年十二月

に過ぎ、会を打ち切らざるを得ませんでした。最後は、愛大合唱団や特音出身の皆さんのリードで大学学歌を熱唱して、再会を誓い、散会しました。

また、現職の方々のご出席が増えるように、ご案内が確実に届くようにしなければなりません。「作文の会」や「合唱団」などの、卒業後の活動やご経験などが出されましたが、こうした教育現場の実践や悩みなどが話し合われ、同窓会報を通して、岡山県支部はもちろん、愛媛県支部そして他県の支部とも交流できるようなになれば、母校がぐんと近くなり、同窓会の意義も高まります。そのために県支部の「名簿」も整備していくつもりです。

「連絡下さりありがとうございます。」
「岡山県人会の発足、誠にありがとうございます。機会があれば是非お手伝いさせていただきます。」

終わりにりましたが、今回の岡山県支部総会開催に当たり、同窓会本部事務局より、過分な「支部支援金」「支度金」「祝金」をいただき、十三万円ほど次回に繰り越すことができました。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、現同窓会長・愛媛大学教育学部教授・理学博士 高橋治郎様は、当日、急な公用のため出席できず、皆さんによるしくとのことでした。

「……」が「会」が発展して松山で開けるようになったら良いですね。」

「体調がすぐれず夏場・冬期等の外出は予定が立ちません。」「すばらしい企画です。新しい縁が生まれるよう御盛会を祈っています。」

「小学校の校長をしています。光が見えてきました。」

同期会



米寿の会あれこれ



金子 六女
(昭一九年愛師女)

米寿を迎えた私達は、昭和十四年当時三津浜にあった愛媛県女子師範学校本科一部に入学しました。

その当時の女子師範学校は、小学校後高等科二年生を卒業して入学する一部生(在学年数五年、定員四十名)と、小学校後女学校四年生を卒業して入学する二部生(在学年数二年、定員八十名)に分かれていました。

学校は全寮制で、寮は白帆行き交う風光明媚な三津浜海岸に隣接し、北寮、中寮、南寮、新寮と四棟あり、部屋は二十畳程の和室で定員八名、一部生、二部生混合の縦割りで編制されていました。室長は最上級生の中から指名されていました。

長幼の序はありましたが、いじめなどはなく、和氣藹々(あいきあい)と楽しい生活でした。一年ごとに編制が

えがありました。鐘の音と共に起床し、就寝する厳しい寮則に従い五年間、人間としての教育を受けました。

自習時間はおしゃべり駄目で、黙々と勉強したものです。当時はピアノのある学校は少なく、オルガンの時代でした。練習するオルガンの数が少なく、オルガン検閲の前は夕食もそこそこに、オルガン獲得に走ったことを今でも鮮明に思い出します。

三年生までは正常な授業を受けましたが、四年生になると昭和十六年十二月に始まった太平洋戦争が激しくなり、敵国語を使つてはいけなくなり英語の授業がなくなり薙刀が教科になりました。県立だった師範学校が国立に昇格し、愛媛師範学校女子部になったのもこの年でした。

五年生になると体操の時間は、竹槍訓練、バケツ消火訓練、勤労奉仕にも行きました。太平洋戦争真っ只中の昭和十九年三月に卒業しました。卒業生三十六名は、辞令により県下の国民学校(現在の小・中学校)にそれぞれ赴任しました。当時の国民学校は、男子教員は兵役につくため多くの者が徴兵されており、正教員は少なく代用教員で補充しておりました。

私は南郡出身なので、地元の国民学校に赴任しました。教員数十名のうち正教員四名、代用教員六名でした。校長先生、教頭先生の次が私の席でした。

新任の私は赴任の挨拶だけを考えて、入学式に臨みましたが、いきなり入学式の歌のオルガンを弾くことを命じられ、想定外の出来ごとに頭が真白になり、何をどう弾いたか、今思い出しても冷汗が出ます。

担任以外にも高等科の音楽、体操(薙刀)を受け持たされ、郡内の研究授業も、国語、理科と一年に二回もしました。正教員なるが故の重荷を背負わされた戦時中の教育界でした。ちなみに、初任給は五十円でした。

教員生活二年目に終戦になり、混乱する戦後教育界にあつて、私たちクラスの場合は多くの者が結婚退職をしました。定年退職まで勤めた人は、クラスで六名でした。

卒業後のクラス会は三回ぐらいありましたが、ばらばらになった仲間と一泊二日の楽しいクラス会をするようになったのは、六十六歳を迎えた平成三年からです。平成十四年までは毎年当番制で場所もいろいろ変えて開いていきましたが、高齢化で世話をする人がいなくなり中断しました。

八十四歳になった平成二十年、龍山さんの呼びかけで、途絶えていたクラス会をしました。八名集まり元気で会えたことを喜び合っ

た気軽なミニクラス会でした。

その時、「三年後に米寿のクラス会をしようね」と約束していましたが、今年三月蒲池恵美子さんが他界され、再会できないままになっていました。恵美子さんは、教育学部に長く勤務され、子規全集を編集された、故、蒲池文雄先生の奥さんです。

彼女は老齢になり介護施設の病床で、戦争の只中で青春を送った同士や戦争を知らない若者に、二度と戦争を起こしてほしくない気持ちから、自分の学生生活、寄宿舎生活を書いたエッセイ集「ポランド回廊」と題した本を出版されていきました。一人娘の美鶴さん(大学教授)から、クラス会の皆様へと十部寄贈されました。

これを機会に、三年前に約束していた「米寿の会」を開催し、恵美子さんを偲ぶと共に出席した人に配本しようと川崎さんのお世話で急遽ミニクラス会をすることになりました。

期日 平成二十三年六月十日
場所 松山駅前キスケカラオケ
集まったのは五名でした。

昼食の料理を食べながら、恵美子さんがクラスでも目立った存在で、独唱は宝塚みだだし、絵も上手、ダンスも上手、何でも出来る八方美人だったと追憶、私たち老婆も学生時代に返り、想い出話しに花が咲き、同級生っていいね……話はつきません。五年間、同じ釜の飯を食べた絆の強さでしょ

うか?

趣味がカラオケの中川さん上手な歌を聴かせてもらい、私達も全員で「故郷」を合唱した所で、家族が迎えに来たので閉会、「元気で長生きしようね」と誓い合つて別れました。

大正、激動の昭和、平成と三世代を生き抜いた私たちです。あらに旅が立つ時は、「ぴんぴんころり」と迷惑をかけないように行きたいものと願っています。

平成二十三年六月十日現在の生存者二十一名、苦痛に耐えて生きているクラスの皆様、「くじけないで。」頑張つて下さい。お互いいい人生の卒業が出来ますよう祈っています。

798-0039 宇和島市大宮町
二二二一〇



東京駅から日帰りの旅

昭王会東京支部の集いから

伊藤 始

(昭二〇卒)

品川区立中小企業センターの新緑が鮮やかな昨年五月、昭王会東京支部の集いがありました。二十九回目です。

懇親会に先だち、研究や趣味などの発表の時間を設けています。今年で六人目です。本年は首藤敏君の「東京駅から日帰りの旅」です。十コースのうちから、長野県の「小海線・篠井線」の車窓から見た光景についてのスピーチでした。その一部を紹介します。

「東京駅から長野新幹線に乗り、佐久平で下車。ここからは小海線です。別名「八ヶ岳高原線」といいます。列車は佐久平の中央を南下します。ここ佐久平は、北は浅間山二五六〇メートル、西には蓼科山二五三〇メートル、南が三千メートル級の八ヶ岳連峰に囲まれた、標高六九〇メートルの高原です。森と沼、そして千曲川の水系に囲まれた健康の里です」
(塩尻駅から篠井線に移る)

「これも山岳路線で、塩尻を出てしばらく行くと松本市に入り、市街を眺めることができます。常念岳を見ながら明科駅を過ぎると、犀川が現れます。そしてすぐ、目の前に安曇野が広がります。厳しいアルプスを父に、優しい安曇野を母にした自然は、いつも豊かな表情を見せてくれます。なお安曇野は、日本一のワサビの産地です。また、小学唱歌で有名な「早春賦」は、ここが舞台だと言われています。

安曇野を後に、いくつかのトンネルを抜け、スイッチバックを三回くり返して姨捨駅に着きます。スイッチバック三回は、わが国でここだけです。

「おもかげや姨一人泣く月の友(芭蕉)の句碑があります」

以上、ほんの一部です。十一時間の旅を二十分ほど話してくれました。資料も見ないで内容を全部暗記しています。名調子で情景をリアルに描写してくれました。特に山の名前、その標高がすらすら出てくるのは驚きました。老いてなお、衰えを知らぬすごい記憶力です。

来年は、神野正光君の「仏像彫刻について」です。ご期待ください。

懇親会に先だち永井君から、昨年亡くなられた関谷弘君の、奥さんからの手紙を披露。そして彼の霊に黙祷をささげました。

永井君、菊池君から同期生の消息の報告がありました。一七八名の卒業生のうち、生存者は六十二名とのことでした。

近況報告の後、神野君の音頭で校歌を高らかに歌い、再会を約して散会しました。

出席者は、愛媛から池川啓司、菊池巧、関東は兼頭吉市、神野正光、首藤敏、永井恒男、深見清春、伊藤始の計八名でした。



原稿募集

次号 第二一四号

短くても結構です。多くの方々のお気軽なご寄稿をお待ちしております。

◇「今、教育学部に思うこと」を特集しています。ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集いや活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・絵手紙・川柳・俳画・短歌・詩等)について

★ 会員便り

★ 旅行記 4この頃思うこと

★ 2季節便り 5忘れ得ぬ人など

★ 3教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせて載りますので、ご了承ください。

◇ 原稿メット 四月三十日

★ 発行 七月一日 予定

★ 依頼者以外は千二百字厳守

★ 四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真

筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

会報の送料納付について

平成二十三年七月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

① 一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

② 二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替

振替口座番号

〇一六四〇一七二七五四
送り先 七九〇一八五七七
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。



会員の声

附属小学校の思い出(二)



愛媛師範学校教員
栗田国彦先生のご長男

栗田 瑞夫

さて、五年生になり、受持は富永徹先生に代った。先生は冒頭「ここに湯呑みが二つありどちらかに毒が入っている。一度だけどちらに入っているか言うから良く聞いて、その後一杯を飲めと言ったら誰でも真剣にその言葉を聞くであらう。その位の熱心な気持ちで授業に耳を傾けよ」といった訓示をされた。実は後年先生が郷里宇和島で亡くなられる直前、当時の同級生十数人で訪れた際この話を申し上げたら「良く憶えているな。その話は良く使ったものだよ」と我が意を得たりといった顔をされ嬉しかった。

たがソロバンの練習があり、足し算のスピードが競わされて一生懸命になって頑張った。理科や工作、習字や図画については全くといっていい位記憶がない。元来不器用で出来が悪かったせいであろう。一方音楽は多少血筋のせいが好きでもあり得意であった。音感教育で、高島先生が、ドミソドファラ シレンソ といった和音を弾いて生徒に答えさせるものがあるが、私は世の中でこんな簡単なものはないと思える位容易であった。ところがそれが判らない級友もいてお前は どうして易々と判るかと思議がられたが、私は逆に どうしてそんな事が判別出来ないのかその方が不思議だった。之に関連する事柄として、当時愛媛県出身の前田山(後年横綱)が或る時来校、我々は天下の大関を目の辺りにして大いに湧いた。その折、富永先生は「相撲取りは立派な体格をしているが或る点不自由な体でもある。転んでも自分で起き上がれない力士もある」と言われ、その時、前記和音と併せ考え、人はそれぞれ持って生まれたものがあり得てあれば不得手あり要は得手を伸すことが大切かと至極当り前の事に思い至った。

音楽については今少し述べると、高島先生は仲々進んだ教育をされ、クラスから楽器の好きな者を選んできて楽団を編成(ピアノ、アコーディオン、ハモニカ、太鼓、タンバリン等々)放課後居残って合奏練習をした。私はアコーディオンを担当、曲目は、越後獅子、カッコウワルツなど、仲々のものだったらしく、ラジオ(松山放送局)に出演(?)一寸した話題となった事もあった。今のレベルからみれば幼稚極まりないものだったと思うが、高島先生は秀れた指導力を持っておられたものと思う。

音楽の話が続いて恐縮であるが、戦意昂揚のため昼休み全員が講堂にて「とき今だ 決意に燃えよ米英の いのち根こそぎ 撃ちてし得まん く……」等の勇壮な歌を覚え乍ら大合唱したり、又或る時は昼休みグラウンドで遊ぶ生徒に聞こえる様、大スピーカーで、敵機グラマンやボーイングの爆音をレコードで流し耳の訓練をさせられた事も懐かしい思い出である。

その林校長であるが、父が松山に赴任した時、家族全員(弟妹合せて五人)でお宅にご挨拶に伺った事をどういふわけかハッキリ覚えていない。まだ入学前五才の時かと思うが、先生が立派な鬚をはやしておられたので「それでひげはよし先生というわけか」と言って頭をコツンとやられた。どうもそういう癖があり、いまだに直らないのは我乍ら困ったものと顧みて恥ずかしい。

トンド方向へ筆がそれたが、授業の後の放課後はどう過していたか。タンキユウと追ってくる悪童から何とか逃げて帰ってからは、遊んだ事と片端から好きな本を読んだ事で大部分の時間を過したようである。第一、宿題などまづ無く授業を良く聞いておれば大体理解出来、それで良かった。級友の多くも同様であったろう。

遊びはランコン(語源は何である)といったビー玉、それに武士の絵図が書いてあるメンコ、土の上に釘を立て陣地を争う釘立てなど、戦争ごっこも結構楽しかった。今尚覚えていた方もあろうか。

「ベンさん」の名で知られた名物のオッサンがいて、我々が遊んでいるとヒョッコリ現れ、刀や剣の模型の如きモノを作って呉れたりヒョーキンの度合を過ぎた可愛いがりをして呉れ、子供等の人気者であった。読書の方は、「少年倶楽部」の廻し読み、小説では最も貪る様に読んだのが山中峯太郎著敵中横断三百里 大東の鉄人 祖国の鐘

など。滅法面白くてやめられなかった。評判講談全集も楽しかった。余り教育的な読み物ではなかったかもしれないが、漢字や、日本語独特の言い廻しなど結果として大分身についたと思う。

兎も角戦時中では窮屈な思いは左程なかったのは幸せと申す他ない。

とはいっても五年生となった昭和十九年は戦火も熾烈化し、級友の中には田舎へ転校して去る人もボチ／＼出て来たが、反対に大都会から転校して来、新たに級友に加わる人もいた。

関連してショックを受けた事があった。算数の時間に東京から転校して来たY君が挙手して富永先生に、ある質問をした処、先生は「Y君の質問は今の君等の殆どが理解出来ない高いレベルのもので……」と説明され「流石に東京育ちには凄い人もいるものだ。所詮僕達は井の中の蛙であったか」と思い知らされた。

といっても格別それから発憤奮起したわけでもなかったが。

ここ迄級友との思い出は殆んど記さなかったのは、余りもそれが多く取捨選択出来ないゆえであるが一人だけ特別に書かせて頂く。

先年惜しくも先立つた安西徹雄君。大街道横の専念寺の生れで、竹組であったが三年の男子組で一緒になつてから気が合ったのか親交を結び、近年迄愉快に続いた。

閃きの鋭い感性の持主で同級生では群を抜いて優秀だった。後年は上智大学教授となりシェイクスピアの大家として知られる一方、劇団「円」の結成に参加、演出家と

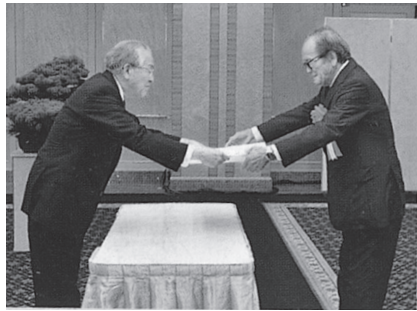
して名を馳せた、文字通り畏友であった。彼とは四年生の時だったか教室でフザケ合っている内に私が足を滑らせ机の横のランドセルを掛ける釘に頭を打ち裂傷を負い出血した。傍にいた教生先生が驚いて医務室へ連れ応急手当をして下さったが「君はエライ。泣かぬから大したもの」と褒めて下さったが私は「こんな事位で泣いてたまるか」という心境。たゞ傷跡は今も頭のテッペン横に僅かなハゲとなつて残つていて、今では貴重な贈物と思つている。現在なら、かゝる事でも何かと面倒な事になる事もあるそうだが、当時は何等気にも懸けず、その後も彼は私の家に度々遊びにも来た。

前述した様に五年の二学期半ば郷里へ転校せざるを得なくなり、涙乍ら教壇で別れの挨拶をした。ところでその後我々附属のクラスメートは、在京組は年に一度は顔を合わせ、数年に一度は松山へも出掛け往時を偲び良い交流が続けている。三年前は松山組が上京して呉れ総勢二十人近く、師を語り往時の失敗談を笑いまこと楽しい一刻を過した。附属への感謝の念は尽きないがこの辺で擱筆する。

結論。良い学校というものが別にあるわけではない。良い先生、良い友のいる学校があるだけだ。附属は間違ひなく、それであった。何と幸せな事であったか。

祝 池川敏幸さん

山上 巨子
(昭二五卒)



受賞式の池川敏幸さん(右)

四国電力株式会社発行の「ライト&ライフ」八月号の中に、よんでん文化振興財団、平成二十三年度、顕彰者として、池川敏幸さん(昭二五卒)の顔写真と、受賞式の様子の記事が載っていました。池川さんは、元香川大学教授、彫刻家、二科会香川県美術会を中心に優れた作品を発表。文部科学大臣賞を受賞。香川県美術会の実行委員や審査員として貢献。地域の芸術文化の振興に寄与された記事を読んで、同期生の御活躍、受賞をよるこび、心よりお祝い申し上げます。

本年度の二五師会を九月三十日(金)に東京第一ホテルで開催しますが、出席者全員でお祝いします。

たいと思います。

(☎) 790-0853 松山市上市二丁目 四一五

よんでん文化振興財団

平成二十三年度顕彰者を表彰(公財)よんでん文化振興財団は、このほど、平成二十三年度顕彰者の表彰式を行いました。今年度は、優れた芸術家に授与する「よんでん芸術文化賞」を、彫刻家の池川敏幸さんにお贈りしました。



池川敏幸さん (彫刻家)

隨身像奉祝除幕式



武田 恵子 (昭二五卒)

六月十七日 高松在住の同級生池川君から便りあり。
「……大山祇神社の隨身像のこと、六月十六日の愛媛新聞にあるように、七月六日十一時から除幕式があり、二体の守護神が、公



開されます。一昨日、総門の中に左右二体を設置して頂きました。私たちが親子の木造彫刻です。見て下さいね。……再会を楽しみに。」
東温市出身、元香川大学教授、池川敏幸君は、二十五年卒業の同期生で同じクラス。机を並べて学んだ友人である。
彼はサッカー部、私はバスケット部、ろくに勉強もせず、赤土とクロバーの城北のグラウンド(愛大)でボールを抱えて、過ごした友である。
六月十六日 愛媛新聞より
「今治市大三島町宮浦大山祇神社の守護役となる隨身像二体の設置が十五日神社総門であり、外構えの門にあたる総門本来の姿が整った。……東温市出身の彫刻家、池川敏幸さんと、鹿児島大学教授の、池川直さん親子が、鹿児島市のアトリエで、約二年半かけて制作……。」
六月二十日 昨年同期会(毎年開催)に出席した私のクラス十二名に連絡する。

『前略、池川敏幸さんの作品の、七月六日十一時〜今治市大三島町大山祇神社で、奉祝除幕式が行われます。』見て下さいね〜再会を楽しみに〜と敏幸さんより便りがありました。三組の人にのみ(同期生は六クラスあり)連絡します。出席されるのでしたら、七月六日十時三十分神社大鳥居前集合
お節介屋 武智 修
武田 恵子

七月に入ると 夫の、妻の介護の為、他の会と重なる為、身体の都合の為、等々連絡が入る。
七月六日 曇 三時頃より小雨
西予市野村町六時出発の、赤松豊君の車は、大洲市の飯野一之君を乗せ、砥部町の武智修君を乗せ、今治市湯の浦道の駅で、私と、四国中央市から来た平井直子さんを乗せて、大三島へ。

七月七日 愛媛新聞より
「約七〇年前に焼失したとされる総門の再建工事を進めていた大山祇神社で、六日総門の左右を飾る翼舎と神社を守る隨身像の完成奉祝祭があり……総門の完成を祝った……。」

池川君を囲んだ参加五人の友人の写真は、二五師会用の私のアルバムに収まっている。
友人の榮譽を心から喜び合える、仲良しクラスの一員である巡り合わせに感謝しながらアルバムをめくっている。

(☎) 799-1302 西条市楠甲一五〇六

厚生労働大臣表彰を受けて

副会長

峯本 高義

(昭三〇卒)

平成二十三年十二月七日、厚労省二階の講堂において、「永年にわたり、身体障害者又は知的障害者の更生援護に尽力し、その功績が特に顕著であると認められる者。」として、更生援護功労者表彰を受けることになり、家内同伴で出席しました。全国から四十四名の同士が表彰され、その一員に加えて頂いたことに心より感激しています。

当日厚労省より配布された表彰者名簿には、松山手をつなぐ育成会相談役 その功績内容には、『二十九年間にわたり障害児教育に携わるとともに、昭和五十八年から松山手をつなぐ育成会の常任理事、事務局長、相談役として会の企画運営にあたり、会の活性化に努めている。』

その間、平成四年から平成十五年までは知的障害者通所更生施設「つくし園」の施設長、平成二十一年から平成二十三年三月までは障害者支援施設「かなさんどう」の施設長として、利用者や保護者の福祉向上、支援員の指導育成に寄与した。」と記されています。

私と障害児との出会いは、昭和三十年教育学部を卒業し最初に赴

任した当時の北宇和郡蔭村立蔭瀨小学校（現宇和島市立）に新設された特殊学級の担任者となった、昭和三十四年から教員生活三十七年のうち二十九年を障害児教育に専念してきました。

その間、平成元年には「特殊教育振興功労者」として石橋一弥文部大臣から、平成三年には「教育振興功労者」として鳩山邦夫文部大臣から表彰され心から有り難く思っております。

定年退職した平成四年からは、学校教育修了後の障害者の社会自立と保護者の安らぎを実現するために、施設運営や育成会活動に係わったさまざまな活動を認めて頂いたことになり心からうれしく思っています。

今回の受賞は私の思いを支えて下さった障害者本人やその保護者それらを取り巻く多くの関係者のご支援、ご協力の賜物と心から感謝しています。

さて、表彰式は午前中で終り、講堂で昼食をすませた後全員バスで皇居に向い、宮殿にて天皇、皇后陛下に拝謁し、おことは頂きました。天皇陛下には退院後間のない時にもかかわらず、皇后様に手を添えられてお立ち台に上げられやさしいお声で受賞者の労をねぎらい、健康に留意してこれからも福祉の向上に尽力して下さいとおことばを頂き身の引きしまる思いでした。

車いすで参加されている受賞者には一人ひとりにお近づきになり

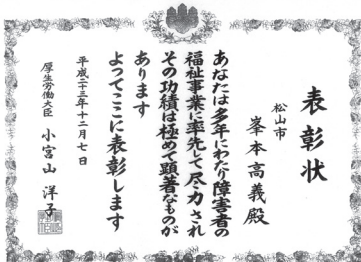
身をかがめてお声をかけられる細かいお心づかいには感動しました。二十年前の文部大臣表彰の時と比べ今回は受賞者が少なく陛下を身近に感じる事ができました。

拝謁の後は宮殿前のお庭で記念撮影がありました。受賞者を前列に配偶者がそのうしろに立って撮影しました。天候に恵まれきれいな写真に出来上がっているものと期待しております。（写真はまだ届いておりません。）

育成会や本人部会の活動にはできるだけ参加してきた家内にとつて、今回の受賞は我がことのように感じてくれたのではないかと思います。

受賞とエメラルド婚を記念して鬼怒川温泉、日光東照宮、中善寺湖等を観光し永年の労を少しはねぎらうことができたのではないかと思っております。ありがとうございます。

791-8067 松山市古三津 三一一六九



お詫びいたします

H・K

(昭一九卒)

前略、いつも同窓会報をいただき有難うございます。

実は、私十何年も前に御誌に、特に編集の係のお方に、大変失礼なことをし、御迷惑をおかけした者です。

文芸欄に投稿しましたら、その後原稿用紙を送って下さいました。有難いことと感謝しつつ三回も投稿いたしました。

その後、係の方から寄附のお電話をいただきました。いつもの私でしたら、勿論、すぐに気持ちよく応分の送金をさせていたいたはずでした。

所が、丁度その時、家庭内で一寸した事件があり、私の気持ちがお金にこだわってしまいました。

済みません。言い訳ですが、聞いてくださいませうか。

実は、その五・六年前、私の知人のAさんがお金が必要となり銀行から百万円借りました。その時、Aさんの血縁の方と、私の夫と、二人が連帯保証人になりました。

Aさんはその後きちんと返済していたのですが、五年たった頃、不幸な事が重なり、半分程が返却できなくなりました。

保証人が信用保証協会に何度か呼ばれ、結局、残額全部と利子等を夫が全部振込んだことで終了しました。

夫はAさんを理解していて私には何も言いませんでした。私にもう一人の保証人のことを思い出した。

丁度、その頃だったのです。同窓会報の編集の方からのお電話を受けたのが……同窓会報の方とは全然関係がないのに……私の中にお金にまつわる人物への拒絶感があったのでした。私は係の方へ「応」と言えなかつたのでした。

係の方は私の対応に驚き、意味が通じてないのだからと何度も繰返しました。そうされる程に私は頑なに拒否したのでした。

ごめんなさい。恥ずかしい。済みませんでした。できたら許してほしいですが。

その後、自分の誤りに気づきました。すぐお電話すればよかったのに「あやまろう。手紙を書こう」と思ってしまったのでした。

何冊かの会報と便箋を持って「書こう。書かなくて」と気持ちにはうろろして、日がたちました。

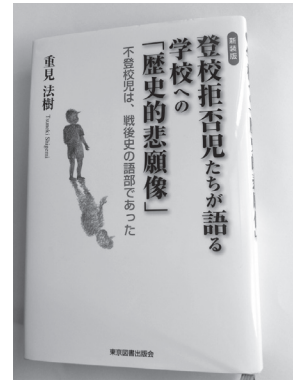
家人が事故で半年も入院し、私も五ヶ月付き添ったり、やがて老介護が続きました。が今は私独りで、気がつけば歩くのも不自由なっていました。

手は動く。何とか字が書ける。今お詫びしておかねばと。

自分でない自分が電話で頑ななことを言ってしまったようです。済みませんでした。あの時の係の人に、どうかお詫びを届けてほしいのです。お願いします。少しですが、今送金いたします。同封のお金を会報編集の一部に入れて下さいませ。

済みません。言い訳ですが、聞いてくださいませうか。

寄贈図書



「登校拒否児たちが語る 学校への『歴史的悲願像』」

不登校児は、戦後史の語り部であった

寄贈者・著者

重見 法樹

発行者 中田 典昭

発行所 東京図書出版社

発売 リフレ出版

判型 B6版

会報送料・寄付者名

平成23年6月～12月

河合タネ子 鴨房一 細川準一 森貞聰 島津恵子 坂木洋子 平山昇子 上田美子 八木光秋 菊池治子 鈴木俊子 井川清子 内田守彌 赤松長生 原長生

山ノ内登 金子六女 須之内勝彦 佐伯幸子 二宮秀典 武市強 河野初美

お詫びして訂正します。

前会報一・二号目次の

職場日より

(誤) 四国中央・金子小教諭 芝

まじか

(正) 新居浜・金子小教諭 芝

敬弔

(物故会員)

(死亡年月日)

(氏名)

Table with 20 columns and 4 rows of names and dates. Row 1: 23.8.18, 23.8.16, 23.8.13, 23.7.21, 23.7.18, 23.7.15, 23.7.9, 23.6.28, 23.6.17, 23.6.16, 23.6.7, 23.6.5, 23.6.4, 23.5.31, 23.5.26, 23.5.7, 22.9.13. Row 2: 高島一臣, 高橋安正, 金崎ハルエ, 那須明穂, 東堂義雄, 那須孝雄, 河野恒照, 高橋清美, 大下鎮, 米澤フサノ, 白石正, 丸山勅, 濱井明幸, 西本マサエ, 水野允陽, 井関勝, (昭24・愛師研究) 高橋博, 森山博志. Row 3: 23.10.19, 23.10.16, 23.10.15, 23.10.14, 23.10.9, 23.10.5, 23.10.3, 23.10.2, 23.9.29, 23.9.29, 23.9.26, 23.9.23, 23.9.21, 23.9.16, 23.9.15, 23.9.11, 23.9.1, 23.9.1, 23.8.29, 23.8.28. Row 4: 毛利実, 松野盛, 村上輝公, 高岡直, 河上美代子, 山岡カズ子, 近藤昌二, 近藤要太郎, 佐伯マサヨ, 中尾嘉蔵, 河野志真男, 松良隆, 池内功, 山内繁浩, 井上文博, 一色キヨコ, 池川邦男, 星加勲, 清家桂二, 濱田孝. Row 5: 23.12.12, 23.12.10, 23.12.4, 23.12.2, 23.11.30, 23.11.27, 23.11.26, 23.11.24, 23.11.24, 23.11.24, 23.11.22, 23.11.21, 23.11.12, 23.11.11, 23.11.11, 23.11.6, 23.11.2, 23.11.2, 23.11.1, 23.10.24. Row 6: 岩瀬延雄, 伊藤武雄, 明比正光, 宮内静夫, 黒川文江, 中井利明, 西田勉, 白石裕邦, 安藤道夫, 三好賢祐, 上甲智恵子, 綿村源喜代, 菊池豊, 三浦守之助, 西村貞美, 藤田俊雄, 兵頭通, 松本二郎, 柳瀬ユキエ, 坂本一郎.

第2回 愛媛大学ホームカミングデイが開催されました

【プログラム】

平成23年11月12日（土）

■記念イベント（南加記念ホール）

14：00～ ウェルカムコンサート

演奏者：ナサニエル・ローゼン、柏原大蔵、垣生悠比子

15：30～ らくさぶろうトークショー

■記念式典（南加記念ホール）

17：00～ 学歌斉唱

学長挨拶（大学の現状説明）

卒業生挨拶

卒業生イベント（卒業生OB）

■懇親会（大学会館1階）

18：00～

好天に恵まれキャンパス内の木々が紅葉する中、卒業生や在学生、元教職員の皆様をお迎えしました。また当日は学生祭も開催されており、キャンパス内には所せましとサークルの模擬店が並び、学生の呼び込みも賑やかでした。

記念イベントとして、南加記念ホールでは14時から国内外で活躍されているチェリスト、ナサニエル・ローゼン氏をお迎えし、柏原大蔵さん（ヴァイオリン）と垣生悠比子さん（ピアノ）らとの記念演奏がありました。素晴らしい演奏に時間がゆっくりと流れていました。また演奏の後、総合司会の合田みゆきさん（教育学部卒、元南海放送アナウンサー）による、演奏者の方へのインタビューでは、演奏者のウイットに富んだ答えに会場が沸き、演奏中とは違う素顔を見ることができました。続いて、トークショーでは、ラジオやテレビで人気のらくさぶろうさんによる巧みなトークに会場は盛り上がりました。

記念式典は、愛媛大学合唱団（今年全国合唱コンクールで金賞を受賞されました！）による学歌斉唱で始まりました。会場の皆さんにも歌詞をお配りし、声高らかに歌っていただきました。その後、学長による愛媛大学の現況について説明していただきました。

卒業生の挨拶では、森本惇氏（校友会会長、㈱FAZ社長）、一色昭造氏（校友会副会長石崎汽船会長）、また海外からは蔡英春氏（校友会中国支部長、中国東北林業大学教授）をお招きし懐かしい思い出や、メッセージ、また校友会の支援についても話していただきました。記念式典の最後は、元応援団による演舞がありました。OBの皆さんによる演舞は迫力もあり、会場の皆さんの中には感激されていた方もおられたようです。

記念行事の後、大学会館において懇親会が開かれ、東京から来られた菊池満孝首都圏支部長の「えみかビール」による乾杯で始まりました。会場には愛大オリジナルブランド「えみかビール」や「姫の酒」がおかれ、出席された皆さまはお酒を酌み交わしながら交流を深められていました。最後は奈良からお越しの後藤幹郎近畿支部長の乾杯（ここで後藤様から、今日一日素敵なお会で盛り上げていただきました合田みゆきさんに花束の贈呈がありました。）で楽しかった一日の幕を閉じました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

来年11月の第2土曜日、10日に第3回の開催を予定していますので、皆様のご参加をお待ちしています！



(世界的チェリスト：ナサニエル・ローゼン氏)



(校友会 森本会長 挨拶)



(らくさぶろう氏)



(ヴァイオリン：柏原大蔵氏、ピアノ：垣生悠比子氏)



(卒業生・教職員・在校生と一緒に懇親会)



(愛媛大学合唱団による学歌斉唱)



(卒業生の元応援団による応援披露)